

## 第 2 期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証シート

### 基本目標 1

北海道新幹線を活かした産業の振興と雇用の場をつくる

…P1～P27

### 基本目標 2

北斗市らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す

…P28～P40

### 基本目標 3

子どもを生み、育てたいという希望をかなえる

…P41～P60

### 基本目標 4

住み続けたいという暮らしの環境をつくり守る

…P61～P74

基本目標1	北海道新幹線を活かした産業の振興と雇用の場をつくる ～ 活力ある地域をつくる ～
-------	---

数値目標：新規雇用増加数

計画策定時 234人 (H27～R1)	➔	現状値 265人 (H27～R3.3月末)	➔	目標(R6年度末) 400人
---------------------------	---	-----------------------------	---	-------------------

数値目標：納税義務者数（所得割・給与所得者）

計画策定時 16,270人 (R1当初賦課)	➔	現状値 16,498人 (R3当初賦課)	➔	目標(R6年度末) 17,200人
------------------------------	---	----------------------------	---	----------------------

施策(1)	企業立地等による雇用創出と地域経済の活性化
<ul style="list-style-type: none"> <li>立地適性に優れた新たな土地利用計画の策定や北斗市の立地環境を活かした企業誘致によって、雇用を創出するとともに、北海道新幹線札幌延伸を見据え、新函館北斗駅を中心に地域経済の活性化を図る施策を展開。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、企業誘致活動などが実施できない状況であり、KPIの伸びも微増又は止まっているが、R3年度は、新函館北斗駅前平面駐車場の整備や観光交流センター活性化対策などに取組み、新函館北斗駅の利便性の向上につなげる必要がある。</li> <li>企業立地の可能性が高い追分C周辺については、関係機関との協議を速やかに進めることが重要。</li> </ul>	
---	--

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標（R6末）
・企業立地数 （新函館北斗駅周辺）	31社 （H27～R1）	32社 （H27～R3.3月末）	50社
・雇用増加数 （新函館北斗駅周辺）	223名 （H27～R1）	254名 （H27～R3.3月末）	300名
・企業立地数 （新函館北斗駅周辺以外）	2社 （H27～R1）	2社 （H27～R3.3月末）	10社
・雇用増加数 （新函館北斗駅周辺以外）	11名 （H27～R1）	11名 （H27～R3.3月末）	100名

① 企業立地の促進

A	新駅周辺地区企業立地補助金〔水産商工労働課〕	継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>新駅周辺地区の事業活動及び交流機能を促進する都市機能の創出、民間の事業活動の活発化及び雇用機会の拡大のため立地した企業に対し、ホテル事業などは、建築投資額、設備取得額等の15%、その他の事業は建築投資額、設備取得額等の10%を助成。</li> <li>新函館北斗駅前整備面積13.5haうち商業用地52,737㎡</li> <li>現在の立地状況～ホテル事業2社、レンタカー事業9社、飲食店事業2社 計13社（補助対象事業）そのほか郵便局、道営住宅1棟40戸</li> </ul>		
事業費（円）	R2決算額 221,674,000	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなホテルが営業開始（R2.6月）されたが、未活用地は昨年度と変わらず動きがなかったため、今後も継続して企業誘致を推進。</li> <li>立地企業2社に対して、土地賃借料で204千円、建築・設備補助で221,470千円の助成を実施。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、企業誘致に関しては行政側、企業側とも積極的に活動できない状況が続いている。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症による社会情勢等の変化に注視しながら、今後もこの補助制度を周知し、活用を促しながら企業誘致につなげていく。</li> <li>札幌延伸を見据えた企業立地助成制度の検討（本社機能移転に伴う場合の助成率の変更などについて検討）。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新函館北斗駅前の3棟目となるホテル建設計画が発表されており（竣工予定2023年2月）、さらなる都市機能の創出を図る。</li> <li>現行補助制度では、R4年度までの事業期間となっているため、北海道新幹線の札幌延伸に向け期間の延長を視野に入れた改正を予定。</li> </ul>			

B 企業立地促進等税制（固定資産税の課税特例）〔税務課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の企業立地に対する税制優遇制度を満たす、一定の工場、事業所、事務所等を市内に立地した企業に対し、固定資産税を3年間に限り、不均一課税や課税を免除する特例措置を実施。</li> <li>・生産性向上特別措置法に基づく先端設備等（R3年度以降の導入分：中小企業等経営強化法）の固定資産税に対し、3年間課税標準額をゼロとする特例措置を条例規定し、R1年度の固定資産税から実施。（＊下記の事業費欄は減免額を記載）</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 9,530,000	R3予算額 3,364,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半島振興法の適用による特例措置は、新規の適用はないが、適用2年度目1件（旅館業）、3年度目1件（旅館業）の不均一課税を実施（減免額：7,966千円）。</li> <li>・生産性向上特別措置法に基づく先端設備等の固定資産に対する特例措置では、新規適用2件（食料飲料卸売業、建設機械器具賃貸業）の課税免除を実施（減免額：1,564千円）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半島振興法の適用による特例措置は、新規の適用はなく、適用3年度目1件（旅館業）の不均一課税を実施（減免額：1,895千円）。</li> <li>・生産性向上特別措置法に基づく先端設備等の固定資産に対する特例措置では、新規適用2件（建築工事業、建設機械器具賃貸業）、適用2年度目2件（食料飲料卸売業、建設機械器具賃貸業）の課税免除を実施（減免額：1,469千円）。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<p>事業の継続実施 【適用見込み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上特別措置法に基づく先端設備等の固定資産に対する特例措置では、適用2年度目2件、適用3年度目2件の課税免除適用見込み（減免額：1,312千円）。</li> </ul>		

C 市長のトップセールスによる企業誘致の実施〔水産商工労働課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新駅周辺地区等への立地に意欲のある企業に対して、市長によるトップセールスを実施し、企業誘致の推進を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 250,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地を検討している企業に対する直接的なトップセールス活動はコロナ禍により実施できなかったものの、関係団体には協力要請などを適宜実施。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による社会情勢等の変化に注視しながら、立地検討企業に対するトップセールス、関係団体に対する企業誘致の協力要請などを実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでと同様に市の助成制度や立地環境等をPRするとともに、幅広い業種を対象とした企業誘致に取り組む。</li> </ul>		

D 企業立地説明会等への参加 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業を対象とした立地セミナーやフォーラム等に参加し、立地環境や制度等のPRを実施。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	948,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラムや企業立地セミナー等へ参加して立地環境や補助制度等のPRを実施するほか、問い合わせ等のあった企業を個別に訪問し、継続して企業誘致を推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、立地セミナー自体が開催中止となっている状況である。</li> <li>・函館地域経済牽引事業促進協議会による企業誘致PR活動（オンライン展示会出展）に1回参加。 Google広告表示回数194万回、Facebook広告表示回数 1,786回</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による社会情勢等の変化に注視しながら、これまでと同様に市の助成制度や立地環境等をPRするとともに、札幌延伸を見据えた企業誘致を推進。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでと同様に市の助成制度や立地環境等をPRするとともに、札幌延伸を見据えた企業誘致を推進。</li> </ul>		

E サテライトオフィス等の導入に関する調査・研究 [水産商工労働課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道新幹線の札幌延伸を見据えた企業誘致活動の選択肢の一つとして、立地環境を活かした新函館北斗駅周辺へのサテライトオフィス等の導入について調査・研究を進める。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、進出企業等のニーズ把握などの情報収集がなかなか進められない状況であった。</li> <li>・今後については、社会情勢等も踏まえて企業誘致活動に取り組みながら、先進事例等を参考として、導入に向けた検討・調査研究を進める。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部に本社がある企業が、地方における新たなビジネスのスタートや事業拡大のため設置される「<u>地方型サテライトオフィス</u>」を主軸とした先進事例等の調査を継続して進める。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトオフィス設置に対する助成金の追加などについて検討。</li> </ul>		

② 市内企業の雇用確保と雇用機会づくりの促進

A 雇用促進補助金 [水産商工労働課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の雇用拡大及び女性、高齢者等がチャレンジできる環境づくりの一環として、就職が容易でないとされているひとり親家庭の母、障がい者、高齢者等の雇用を支援する助成制度を創設し、市内企業の雇用確保及び雇用機会の増大を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	1,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハローワーク、市ホームページ、広報にて周知していたが、実績はなし。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大が中小企業等の雇用に影響があるものと考えている。</li> <li>特別支援高等学校との意見交換会等で市内中小企業に対し情報提供を行った。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に続き、関係団体等を通じ制度周知等に努めてきたが、雇用調整助成金と同時申請ができないなどの採択要件もあり、実績がない。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もこの補助制度を周知し、活用を促しながら関係機関等を通じて情報交換、提供に努める。</li> </ul>		

B 企業立地補助金 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に工場、特定事業所等立地する企業に対し、投資額2,500万円以上で雇用増加を見込める場合、2億円を限度として、雇用増加人数に応じて投資額の10%から25%を助成。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助申請については実績なし。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、企業立地に関しては企業側も積極的に活動できない状況が続いているものと思われる。</li> </ul> <p>※これまで4社の増設に対して助成を実施し、24人の雇用増加が図られた（平成25～29年）。</p>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助申請については実績なし（9月現在）。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請が見込まれる場合に予算措置する。</li> </ul>		

C 雇用状況等に係る情報交換 [水産商工労働課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用確保と雇用機会づくりの促進のため、求人側、求職側を含めた関係団体との雇用状況等に係る情報交換や調査研究に取組む。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で、近々の雇用状況等は目まぐるしく変化しており、現状では中小企業等の事業継続を優先した支援策が行われている。</li> <li>北斗市商工会の協力を得て、市内工業団地立地企業に対して、新型コロナウイルス禍での現状についてアンケートを行った。</li> <li>雇用状況等に関するアンケートを実施予定であったが、現状を踏まえ、次年度に実施を延期することとした。</li> <li>特別高等支援学校との就労に関する情報・意見交換会を実施（1回：15名参加）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の収束状況を確認しつつ、継続して情報収集に努める。</li> <li>昨年未実施となった雇用状況等に関する中小企業へのアンケートについては、年度内の実施に向け調整中。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内中小企業の雇用状況等の把握に努め、そのニーズに沿った支援を推進。</li> </ul>		

D 求人情報の発信 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労場所の確保と経済発展の一体的な取り組みを行うため、市民や移住・定住希望者等に対して、市内企業の求人情報をホームページで発信。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内企業5社の求人情報をホームページで発信。</li> <li>無料職業紹介所による農家の求人情報をホームページで発信。 (求職申込実績：20件 紹介実績10件、求人申込実績：事業所36事業所、募集人数70人)</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内企業の求人情報をホームページで発信。</li> <li>無料職業紹介所による農家の求人情報をホームページで発信。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の継続実施。</li> </ul>		

③ 新函館北斗駅周辺における集客力の向上

A 観光交流センター本館の運営 [観光課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新函館北斗駅及び周辺地区の利便性の向上、地域の活性化を図るため、観光及び交通に関する地域情報の提供、地場産品の展示、販売等を行う観光案内所、アンテナショップ等の機能を有する観光交流センターを指定管理により運営。</li> <li>・R1年度に策定した観光交流センター運営計画によりハード面やソフト面の効果的な運営管理の方策に取り組む。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 37,513,000	R3予算額 43,078,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営計画に基づいた実施計画のもと、効果的な方策に取り組んでいる。</li> </ul> [実施内容] ①新函館北斗駅舎2F観光案内所から観光交流センター別館までを誘導する床サイン。 ②観光交流センター別館入り口へ内照式案内看板を設置（3カ所）。 ③木製案内掲示板3基、木製簡易屋台5台設置。 ④新函館北斗駅舎前庇部分への案内表示板設置（5カ所）。 ⑤別館ほっくるテナント事業者への経営支援（コンサルとのヒアリング）。 ⑥新函館北斗駅正面入り口壁面の大型案内ステッカー設置 ほか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線開業効果の落ち着きや新型コロナウイルス感染症の影響により環境が変化した。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線開業効果の落ち着きや新型コロナウイルス感染症の影響により環境が変化したことで、<u>運営計画をベースにした観光交流センター活性化対策を実施。</u></li> </ul> ①おがーるの観光交流センター別館への移転。 ②新たな働き方の出現による別館へのワークスペース設置。 ③定期的な催事・イベントの実施。			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響などにより、観光交流センターの活性化対策は急務であることから、地域住民をターゲットにした催事やイベントを定期的実施し、賑わい創出と収益向上に努める。</li> <li>・活性化対策による観光案内所と観光協会事務所の統合化により事務や経費の効率化を図る。</li> <li>・現行の2階観光案内所は機能の一部を残すこととしており、例えば体験メニューなどの案内に特化した窓口の創設を検討。</li> </ul>			

B 観光交流センター別館の運営 [観光課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新函館北斗駅及び周辺地区の利便性の向上、地域の活性化を図るため、お土産や弁当などの販売や飲食物を提供するテナントが入居する観光交流センター別館を指定管理により運営。</li> <li>・観光交流センター別館ほっくるは、開業時18店舗でスタートしたものの、R3年6月現在のテナント事業者は7店舗に留まっている（このうち、空いている4区画分を利用し、休憩スペースに用途変更し活用している。）。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 14,407,000	R3予算額 13,907,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営計画に基づいた実施計画のもと、効果的な方策に取り組んでいる（床サイン、案内看板等）。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、管理運営費に充当されるテナント利用料や共益費を減免したことから自主財源が大幅に減少した（減免額合計：4,375,754円）。</li> <li>・新幹線開業効果の落ち着きや新型コロナウイルス感染症の影響により環境が変化した。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線開業効果の落ち着きや新型コロナウイルス感染症の影響により環境が変化したことで、<u>運営計画をベースにした観光交流センター活性化対策を実施。</u></li> </ul> ①おがーるの観光交流センター別館への移転。 ②新たな働き方の出現による別館へのワークスペース設置。 ③定期的な催事・イベントの実施。			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響などにより、観光交流センターの活性化対策は急務であることから、地域住民をターゲットにした催事やイベントを定期的実施し、賑わいを創出と収益向上に努める。</li> </ul>			

C 新函館北斗駅前駐車場管理事業 [水産商工労働課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体駐車場、平面駐車場を適正に管理することにより新函館北斗駅周辺における集客力の向上を図る。</li> <li>・平面駐車場有料化（12月～）に伴う、回数券・定期券の販売等を含めた管理体制を構築。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 26,589,534	R3予算額 30,247,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料時間延長に関しては、おがーや別館ほっくるの利用者から利便性が向上されたとの声が多く聞かれ、また、新幹線割引廃止に伴い立体駐車場から平面駐車場への移動が多くみられたものの、施設管理面では順調であった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う新函館北斗駅利用者の大幅な減少があり、使用料の減収が余儀なくされている状況であった（利用実績～利用台数46,581台 金額 13,536,300円）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体駐車場については、新型コロナウイルス感染症による社会情勢等の変化に注視しながら、事業を継続実施。</li> <li>・平面駐車場有料化（12月～）に伴う、回数券・定期券の販売等を含めた管理体制を構築する。また、平面駐車場が有料化されることにより、<u>立体駐車場の利用者の増加等の変化が見込まれることから、利用状況を注視。</u></li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面駐車場と立体駐車場のニーズを把握し、駅前駐車場の利用促進を図る。</li> </ul>		

D 平面駐車場整備事業 [企画課・都市住宅課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新函館北斗駅前及び周辺地区の駐車場について、平成30年4月から有料となった立体駐車場の2階・3階に空きが見られる一方で、無料の平面駐車場が混雑している状況から、立体駐車場と平面駐車場の一体としたあり方を検討し、<u>平面駐車場の利便性向上のための舗装工事、有料化に向けた駐車場料金精算システム機器の設置</u>を行う。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 78,807,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面駐車場整備事業については、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛の状況下で、今後の平常時における利用状況を見定めるため、R2年度の実施を見送ることとした。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月までに平面駐車場舗装工事、区画線及び照明整備、料金精算システム機器設置を完了予定。 一般車両用：152台、障がい者用：5台</li> <li>・有料での供用開始に向け、第3回定例市議会で条例改正を行い、立体駐車場と一体となった管理運営のための準備を進める。</li> <li>・<u>月単位での利用者や回数券の導入を想定した料金体系を構築。</u></li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		

④ 追分IC周辺の土地利用計画の策定

A 追分IC周辺市街化調整区域の土地利用 [都市住宅課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R1年度策定し、現在、北海道と協議及び修正中の「北斗追分インターチェンジ周辺の土地利用方針」を完成させる。</li> <li>・土地利用方針策定時のアンケートで、対象地区への企業立地に興味を示している15社に対して、助成制度等の説明を行い、より具体的な企業の進出計画を調査する。</li> <li>・進出業者が現れた場合は、速やかに「市街化調整区域の地区計画」を定め、立地可能な状態とする。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 70,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北斗追分インターチェンジ周辺の土地利用方針」について北海道と協議していたが、新型コロナウイルス感染症の影響によって打合せが出来ず完成まで至らなかった。</li> <li>・進出に興味を示した企業に対しても、同感染症の影響で中長期の事業見通しが困難との理由で誘致活動が進まなかった。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道と協議中の「<u>北斗追分インターチェンジ周辺の土地利用方針</u>」を早急に完成させる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を見定めつつ、企業立地が可能となる「<u>市街化調整区域の地区計画</u>」策定に向けて、必要な核となる企業が現れるよう関係部署と連携し誘致活動を展開していく。また、同計画策定の下準備も並行して進めていく。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・核となる企業が現れた場合、すぐに北海道と「市街化調整区域の地区計画」について協議を開始し、策定までをスピード感をもって進める。</li> </ul>		

施策(2)	北海道新幹線を活かした観光振興
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域経済の活性化を図るため、豊かで美しい自然環境の活用や広域連携を図り、北海道新幹線による交通アクセスの優位性を活かした観光振興により、まちの魅力を高めながら観光入込客数を増やす。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、観光入込客数は激減しているが、R3年度の紅葉回廊事業では周遊路の延長、新函館北斗駅イルミネーション事業では、電飾数を増やしプレミアムな駅前の演出を予定し、アフターコロナを見据え、入込数の増加を目指す必要がある。</li> </ul>
--

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・観光入込客数	76万人 (H30)	43万人 (R2)	90万人

① 資源を活かした観光振興

A 桜回廊事業（観光協会補助事業） [観光課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜の開花時期に合わせた夜間ライトアップを行い内外の来訪者に本市の自然環境の魅力を発信することで交流人口の拡大を図り地域経済の活性化につなげる。</li> <li>会場：法亀寺しだれ桜、松前藩戸切地陣屋跡桜トンネル、大野川沿い桜並木の4か所。</li> <li>ターゲット：北海道新幹線のアクセス性を活かすため沿線自治体の北関東以北に照準を合わせている（ライトアップ：16:30から21:00まで）。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 2,149,536	R3予算額 15,317,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度までの課題からチャレンジブースの設置に向けて取り組みを進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止となった。</li> <li>事業は中止となったが、法亀寺周辺の交通量が増大することが予想されたため、期間中警備員の配置を行い、安全対策を図った。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>4月28日～5月9日までの14日間開催し、56,307人（R1：114,053人）の来訪があった。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響のため法亀寺しだれ桜は、20：30までとした。</li> <li>桜タクシー利用人数：9名（7組）</li> <li>北斗陣屋お花見屋台：4月30日から5月5日の6日間、4店舗、売上額75万円</li> <li>課題：消費喚起を促す仕組みを構築する必要がある。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症予防対策事業であることを前提に実施。</li> <li>課題となった消費喚起を促すためチャレンジブース数の増や新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったクーポン券の発行事業を行う。</li> </ul>			

B 紅葉回廊事業（観光協会補助事業）〔観光課〕		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の豊かで美しい自然環境と北海道新幹線の交通アクセスの良さを活かし、秋から冬にかけての閑散期に集客力を見込める新規事業として八郎沼公園をライトアップし湖面に反射する紅葉を幻想的な情景で楽しんでいただくとするもの。</li> <li>ターゲット：北海道新幹線のアクセス性を活かすため沿線自治体の仙台以北に照準を合わせている（ライトアップ16：00から21：00まで）。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 9,705,289	R3予算額 16,327,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>春の桜回廊事業につづく17日間のロングランイベント（入込数：11,502人）。</li> <li>消費効果を上げるための課題解決に向け市内飲食店などと協賛し、クーポン券の発行による取り組みや近隣店舗への誘導を実施（14店舗で199件の利用があった。）。</li> <li>R3年度のプロモーションやPRに向けた動画や静止画の素材を収集。</li> <li>R2年度が初年度の事業であったが照度不足が感じられたため照明器具の増設を図る。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園内を含む周遊路の延長を図る（270mから800m）。</li> <li>照明機器を周遊路の延長分を含め72基から140基に増設する。</li> <li>消費効果を更に引き出すため、チャレンジブースの開催やクーポン券取扱い店舗の増加を図る。</li> <li>紅葉の色彩が鮮やかになるような樹木の植栽を計画的に行う（R2から実施）。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度までにイニシャルコスト（14,200千円）は終了。</li> <li>R4年度からランニングコスト（7,500千円）で運営。</li> <li>函館市の香雪園とのタイアップを引き続き図り、消費効果を更に引き出すため、チャレンジブースの開催やクーポン券取扱い店舗の増加を図り市内店舗への誘客を促進。</li> <li>R4年度以降においても紅葉の色彩が鮮やかになるような樹木の植栽を5年程度を目安に計画的に行う。</li> </ul>		

C 新函館北斗駅イルミネーション事業（観光協会補助事業）〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテル宿泊者や駅待合者などの来訪者に対し、光でおもてなしをすることを目的にR2年度から計画的に概ね5年程度で進めている事業。</li> <li>点灯期間：12月1日から翌年2月28日まで</li> <li>点灯時間：16:00から22:00まで</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 14,936,877	R3予算額 9,642,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初は南北北海道の玄関口となる駅周辺のイメージアップや商業地区の活性化と閑散期の賑わい創出という目的を掲げていたが、イルミネーションによる来訪者の増加を目指すのではなく、すでに滞在している来訪者（ホテル宿泊者や駅待合者など）に対するおもてなしが図られるよう変更。</li> <li>基本構想としては、観光交流センター別館ほっくるへの誘導が図られるような配置や装飾を施すこととし、街路樹への電飾（延長720m）、観光交流センター別館前の歩行空間へのオブジェ設置（5基）、同センター出入口へのウェルカムアーチ（3か所）、同センターの本館と別館を連絡する動線上にイルミネーショントンネルの設置（26m）を行った。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>5か年計画の2年度目としてR2年度に実施したイルミネーショントンネルの電飾数を約12,000球から約20,000球に増強し、インパクトのあるトンネルを演出。</li> <li>冬季間における駅前の北斗市の象徴的なオブジェとして光る「ずーしーほっきー」のモニュメントを設置。</li> <li>これらにより、季節限定のプレミアムな駅前を演出し、来訪者のおもてなしにつなげる。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>イルミネーショントンネルを観光交流センター本館正面まで延長し、約60mとすることで異空間を演出。電球数を約20,000球から約65,000球に増強。</li> <li>R3年度までのイルミネーションに加え、より一層季節限定のプレミアムな駅前を演出し、来訪者のおもてなしにつなげる。</li> </ul>		

D トラピスト通りライトアップ事業（石別地区観光推進補助事業）〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石別地区の持つ特色ある観光資源のうちトラピスト修道院につづく並木道をライトアップすることで、景観を活かした幻想的でかつ神秘的な情景を楽しんでもらおうとするもの。</li> <li>・点灯期間：12月17日から12月24日</li> <li>・点灯時間：16:00から20:00まで（R1年度までは19時まで）</li> </ul>		
事業費 （円）	R2決算額 2,229,733	R3予算額 2,033,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点灯時間の19時を過ぎてもなお来訪者があることから20時まで1時間延長して実施し、912人の入込を数えた（R1：1,205人）。</li> <li>・最終日に点灯するワックスキャンドルは地域住民が作製したものであったが、参加者の高齢化も進んでおり地域住民の作製機会を残しつつ、ワックスキャンドルづくりを紅葉回廊事業などの体験メニューとして実施することで数量の確保を図った。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により来訪者は限られたが、屋外であることから比較的感染リスクが低いと考えられるため、昨年同様、感染予防対策（検温及びマスク着用の徹底）をしっかりと施した形で開催（開催時間は20時までを継続）。</li> <li>・感染状況により昨年度に引き続きブースによるホット飲料やトラピストクッキーなどの販売を見合わせることも検討。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度に行った実績を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策をしっかりと施した中で実施。</li> <li>・石別地区の持つ魅力を更にたくさんの方々へ伝えるため、内外に魅力あるPRを図り集客増につなげる。</li> </ul>		

E 観光プロモーション事業〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道新幹線を利用した誘客促進をめざし、東北地方をターゲットエリアとしイベント出展等により、市内観光資源のPRや特産品販売等を通じ、本市の魅力を広く宣伝周知するほか、JR駅等で開催される観光キャンペーンへの参加、旅行エージェントへの働きかけ等、観光プロモーション活動を展開。</li> </ul>		
事業費 （円）	R2決算額 197,600	R3予算額 2,300,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行エージェント訪問、商談会など：新型コロナウイルス感染症の影響により未執行。</li> <li>・各種催事など：北海道1回、延べ旅行人数4人</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画では旅行エージェント訪問、商談会など：8回、延べ14人</li> <li>・各種催事など：7回、延べ13人の合計15回、延べ27人</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響によりプロモーション活動は激減している。</li> <li>・一部で新型コロナウイルス感染症対策を施した事業に参画することとしている。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響は引き続きと推測されるが、アフターコロナを見据え、感染症対策を施した催事などには積極的に参画し、プロモーション活動を継続させたい。</li> </ul>		

F 観光PR事業（観光協会補助金）〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内への誘客促進のため、観光協会が市とタイアップして実施する各種観光プロモーション事業に対する支援。</li> <li>事業内容は、各種プロモーション活動で使用するリーフレットやノベルティー等の作成、出展ブース費用、プロモーション参加に伴う旅費等。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,492,746	R3予算額 1,251,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光PR事業：北海道1回延べ1人の実績。</li> <li>イラストマップや駅前ガイドマップの増刷などで来訪者に対する周遊機会の確保を図り、北斗の魅力を発信。</li> <li>観光宣伝素材となる写真を撮影し、各種雑誌や広告などに掲出することで北斗の魅力を内外に発信。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画では2用務、延べ3人のプロモーション活動を予定している。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響によりプロモーション活動は激減している。</li> <li>一部で新型コロナウイルス感染症対策を施した事業には参画することとしている。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響は引き続きと推測されるが、アフターコロナを見据え、感染症対策を施した催事などには積極的に参画し、プロモーション活動を継続。</li> </ul>		

G 映画、テレビ等のロケ撮影の誘致〔観光課〕		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>北斗市の知名度の向上と誘客に伴う経済の活性化を図るため、市内で映画、ドラマ、CMなどの撮影を行う場合の関係機関への調整やロケ弁当の手配など、所謂フィルムコミッションの役割を持つことでその目的を果たそうとするもの。R1年度まで宿泊費に対する補助制度を設けていたが、利用実績が低調な割に撮影が堅調であることから、補助制度をR1年度までとし引き続き誘致に向けた活動や撮影に必要な支援を行っていくもの。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>撮影6件（R1：6件）、問い合わせ8件（R1：9件）</li> <li>エージェント訪問：未実施</li> <li>課題：撮影場所はきじひき高原やトラピスト修道院が多数を占める。単にロケをして帰るだけではなく、ロケをしている風景を写真などで撮影し、観光案内所で紹介するなど、ロケ撮影が盛んに行われるほど絶景であることを何らかの形でPRする必要がある。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>R1年度で廃止した映画撮影等誘致促進補助金の影響は全くない。</li> <li>既に数件の問い合わせのほか撮影も行われており、堅調である。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題となっている撮影現場を撮影し、北斗で撮影が頻繁に行われていることをPRする工夫を行う。</li> <li>例えばロケ地巡りなど、誘客の相乗効果を図るため、観光案内所などでロケシーンの撮影展示を行う。</li> <li>引き続き撮影に必要な関係機関との連絡調整などの支援を行う。</li> </ul>		

H 着地型観光担い手づくり事業 [観光課]		R2新規	戦略事業
事業概要	市独自の特色ある着地型観光商品（体験プログラム）の造成を目指すもの。 ※着地型観光とは、観光客の受入れる地域が主体となって受入れ先ならではのプログラムで企画・販売された旅行商品。参加者が現地集合、現地解散する形の観光形態。		
事業費 (円)	R2決算額 3,047,000	R3予算額 5,797,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施に必要な基礎的調査と整理</li> <li>①地域資源を整理し、プログラム造成に必要な基礎資料としてワークショップなどで活用。</li> <li>②事前に40事業者の担い手調査を行い、どこにどのような事業者が存在するのか、着地型観光の担い手としてその可能性を探り事業参画を図った。</li> <li>③担い手になり得る12事業者への個別訪問とワークショップを複数回実施し、着地型観光の可能性を掘り下げた。</li> <li>④これらを踏まえプログラム造成の課題を整理。R3の進め方について具体案を検討。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング戦略に基づいたプログラム造成や人材の育成</li> <li>①事業者同士をマッチングさせ、<u>着地型観光の仮プログラムを造成し検証。</u> 具体的な検証プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・お寺や民泊を基点とした癒しの小旅行</li> <li>・北斗の当たり前を旅で感じるブラホくと</li> <li>・農業から食の源を知る、学ぶ、体験するアグリツーリズム</li> <li>・北斗だけが持っている特別な場所と空間への招待によるプレミアムアテンダント</li> <li>・新しい旅の形を提案するワンストップ案内窓口の創設</li> </ul> </li> <li>②検証結果に基づいたコンテンツの磨き上げやアレンジを行う。</li> <li>③地域内の着地型旅行商品の提供者と旅行者をつなぐ機能を担う事業体（プラットフォーム）を模索。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験プログラムの販売</li> <li>①前年度の仮説検証を踏まえ、<u>体験プログラムを販売し、サービス化を図るとともに更なる検証を行う。</u></li> <li>②効果的な販売プロモーションを行い、反応（反響）を確認。</li> <li>③持続的な運営体制を構築するため、プラットフォーム担える事業体と連携し、商品販売の基盤を作る。</li> </ul>		

I 着地型観光促進事業（観光協会補助金）〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北斗の自然や風土、歴史などを活かした体験コンテンツを造成し、既存の観光施設を周遊させることで地域経済の活性化に資するものとして実施。</li> <li>・これまで地元農家と連携した「夏野菜収穫体験」や自然資源を生かした「星空観察・日の出鑑賞」「ノルディックウォーク」などの体験観光事業を造成した経緯がある。</li> <li>・主要事業はフォトコンテストで、このほか観光ガイド養成講座を開催し、体験観光に備えた普及を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 773,552	R3予算額 2,247,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトコンテストの通年実施を通じて、撮影スポット巡りなど着地型・周遊型観光に繋げる取り組みを展開。</li> <li>・フォトコンテスト出展状況：111人、376点（上下期合計）（R1：104人、410点）</li> <li>・体験観光に必要なガイドを養成するため研修会を開催し、裾野を広げている（延べ31人参加）。</li> <li>・フォトコンテスト以外の新たな着地型観光の開発が課題。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトコンテスト上期：53人、212点</li> <li>・当該事業は、観光協会の補助事業として実施しているが、観光協会の役割であり観光客の受入れとその体制づくり更には観光関連事業者との連携は当該事業を進めるうえでも喫緊の課題。</li> <li>・R2年度まで市が行ってきた「スタンプレシートラリー事業」を「スタンプラリークーポン事業」として当該事業に再編し、北斗桜回廊事業及び北斗紅葉回廊事業での消費効果の拡大を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトコンテストは市内周遊を目的に実施してきたものの、着地型観光の取組としては乏しい。</li> <li>・フォトコンテストに出展された作品を更に活用するなどの取組が必要なほか、別事業で執行中の着地型観光担い手づくり事業に観光協会にも引き続き参画していただき、観光協会が独自に取組む体験観光メニューの造成を図られるよう支援する。</li> <li>・消費効果の拡大を図るため、スタンプラリークーポン事業の参画事業者を増やす取組を行う。</li> </ul>		

② 広域連携による観光振興

A はこだて旅するパスポート&フリーパス発行事業（負担金）〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体及び交通事業者で組織する北海道新幹線沿線協議会が事業主体となり、新幹線沿線の観光資源、地域資源を活用して観光客の誘致を図るとともに、新函館北斗駅周辺エリアを周遊する利用客の利便性向上を目的として、エリア内の鉄道、バス、市電が2日間乗り放題となる共通フリー乗車券を発行する。</li> <li>対象エリアは北斗市、函館市、七飯町、鹿部町、森町の5自治体で、広域連携によりエリア内への誘客を促進する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 180,000	R3予算額 180,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はこだて旅するパスポート・フリーパス」の販売を行った。 販売件数：3,794枚（R1：1,791枚）</li> <li>インバウンド対応事業としてパワーブロガーによる情報発信やホームページへの縄文関連施設へのアクセス情報を掲載し、アフターコロナを見据えた情報発信の強化を図った。</li> <li>事業全体の決算額は951,005円である（観光振興機構現物協賛のインバウンド対応事業の3,200,000円を除く）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界文化遺産となった北海道・北東北の縄文遺跡群をフックに、周游客の獲得を目指す周遊ルートの造成を行う。</li> <li>また、垣ノ島遺跡や大船遺跡以外にも圏域にはたくさんの縄文文化が根付いていたことから、構成団体所有の縄文文化関連遺物を観光交流センター本館案内所で展示することで、圏域の魅力度向上を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2及びR3は新型コロナウイルス感染症の影響によりPR事業や誘客事業が大幅に制限されていたが収束期を見据え、広域連携する観光事業の一環として各市町と連携しながらエリア内の観光資源をPRし、戻り客の受入れとエリア内への誘客促進、広域での周遊を図る。</li> </ul>		

B 観光ポータルサイト運営事業〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人旅行客が本市で旅するための動機付けとして、多言語化されたホームページにより、市内観光地や宿泊施設といった観光情報を国内外に発信する。</li> <li>海外の主要な観光関連機関（JNTO海外事務所及び海外旅行代理店）に本市の移動手段を表わした地図を備え置き（7万部）することで、「旅マエ」機能の充実を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 825,000	R3予算額 825,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンドは皆無となっているが、収束期を見据えた情報発信を行った。</li> <li>紅葉回廊など新規事業についても最新の情報を更新し、本市の魅力を発信した。</li> <li>北斗市の観光情報特設ページにより5言語（簡体語、繁体後、英語、韓国語、日本語）で情報発信を行った。年間アクセス数：18,860（R1：93,710）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンドの入込み状況は不透明であるが、継続した情報発信により戻り客が期待できることから、収束期を見据えた取組を引き続き行う。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンドの入込み状況は不透明であるが、コロナ対策として充実した衛生対策が施されていることなど、継続した情報発信により戻り客に対する収束期を見据えた取組を行う。</li> </ul>		

C 戊辰戦争終結記念事業 [観光課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R1年度が戊辰戦争終結150周年の節目であったことから、これを契機に道南10市町や11の協賛企業で実行委員会を組織し、それぞれの市町に関連する人物のモニュメントを設置し、内外に幕末の最後の武士の物語を広くアピールし、周遊を促そうとするもの。</li> <li>・本市においては、R1年度に新函館北斗駅前、R2年度に松前藩戸切地陣屋跡、R3年度に意富比神社にモニュメントの設置を行う。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 490,000	R3予算額 625,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松前藩戸切陣屋跡に当時の陣屋としては日本初の洋式星型城郭（要塞）を築いた松前藩第12代藩主の「松前崇広」をメインにした円筒形モニュメントを設置。</li> <li>・R2年度のモニュメント設置は本市のみであったことから新聞等で取り上げられ、本市の幕末における歴史の一片を伝えることができた。</li> <li>・道南全体で30か所、32基のモニュメントが設置された。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニュメントの設置最終年度。</li> <li>・榎本武揚とともに鷲ノ木に上陸し、意富比神社境内が戦場となった大野口の戦いにおいて旧幕府軍を率いた「大鳥圭介」をメインにした円筒形モニュメントを設置。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により大々的なPR事業が実施できないが、チラシ等の作成により収束期を見据えた情報発信を行う。</li> <li>・道南全体で32か所（11市町）、34基のモニュメントが設置された。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニュメントの設置は、R1年度から3か年の継続事業であったためR3年度で事業完了する。</li> <li>・北斗市内には3か所のモニュメントが設置されたが、戊辰戦争は多数の市町に関連するストーリー性の強い歴史であることから、実行委員会が行うキャンペーンなどを通じ情報発信を行い道南全体の周遊観光の促進を図る。</li> </ul>		

施策(3)	まちをもっと元気にする産業振興
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次産業の高収益化をはじめとしたこれまでの取組を進化させる新たな視点からの施策展開を具現化できるよう関係機関との連携を強化する。</li> <li>また、商工業における各種支援策を継続して実施するとともに、起業に対する新たな支援制度の創設により、地域経済の活性化を促進する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあるが、スマート農業や新規開発特産品等に関するKPIに進捗があった。</li> <li>・醸造用ぶどう生産及び地域内加工によるブランド化支援事業については、R4年度からの着実な支援制度の運用に向けて準備を進めることが必要。</li> <li>漁家1戸当たり水揚金額の減については、昨年度のサケの不漁が影響している。</li> </ul>
--

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・自動換気装置導入ハウス棟数	40棟 (R1)	66棟 (R2)	340棟
・農家1戸当たり経営規模	6.02ha (R1)	6.02ha (R2)	6.87ha
・漁家1戸当たり水揚金額	520万円 (H30)	463万円 (R2)	600万円
・醸造用ブドウ栽培戸数・面積	2戸 6.0ha (R1)	3戸 10.65ha (R2)	4戸 32.3ha
・民有林整備面積	180ha (R1)	188ha (R2)	210ha
・新規開発特産品数	31品 (H27~R1)	35品 (H27~R2)	50品
・新規起業・創業者数	12名 (H27~R1)	12名 (H27~R2)	25名

① 先端技術や未来技術を活用した産業振興

A スマート農業・農産物の加工販売等への支援事業 [農林課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省力化や労働力不足に対応するため、GPS機能を有した田植機等の農機具や農業用ドローンの導入に対し、国が行う支援策などの情報提供を行う。</li> <li>・農協や個々の農業者が行う農産物の加工販売等に対して、必要な情報提供やPRなど側面からの支援を実施。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,635,000	R3予算額 未定	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業に対応した農機具等の導入実績 導入農家数：2戸 GPS田植機 1台、薬剤散布用ドローン 1台</li> <li>・6次産業化の概要や国・北海道が実施している支援策などをホームページに掲載し、情報提供に努めた。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業に対応した農機具等の導入計画 導入農家数：1戸 自動操舵付トラクター 1台</li> <li>・今年度の強い農業・担い手づくり総合支援交付金事業に要望していたが不採択 (R3.4.19付)</li> <li>・例年12月に国の補正予算による5割補助の事業(担い手確保・経営強化支援事業)に要望予定</li> <li>・6次産業化については、引き続き情報提供し、側面から支援を実施する。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、側面から支援を実施する。</li> </ul>			

B 施設園芸用ハウス等導入事業 [農林課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設園芸を組み込んだ複合経営の推進は、北斗市農業の発展のためには欠かせないものであることから、ビニールハウス等の導入に対する経費の一部を助成。</li> <li>補助率は事業費の1/2以内。</li> <li>R1年度より自動巻上機の導入支援を拡充。補助率は4/10以内で、JAが1/10を助成。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	11,570,705	12,957,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビニールハウス等の導入に対する助成をすることで、市の基幹作物であるトマト、ネギ、キュウリ、ホウレン草を代表とする施設野菜の売上が増加し、経営発展が図られた。また、高齢化や労働力不足に対応することとなるスマート農業への取組として、R2年度から自動巻上機の導入支援を拡充した。</li> <li>実績：ビニールハウス25棟、温風機他9台、自動巻上機26棟</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営規模の拡大や高齢化・労働力不足に対応するため継続実施。</li> <li>当初予算 ビニールハウス18棟、温風機他4台、自動巻上機42棟。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営規模の拡大や高齢化・労働力不足に対応するため継続実施。</li> </ul>		

C スマート水産業 [水産商工労働課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>北斗市水産振興対策協議会において、ICT・AI・ロボット技術などを活用したスマート水産業（デジタル操業日誌、ICTブイ、簡易CTD、魚探、水中ドローン等）の情報収集・効果検証を行い、導入を推進する。</li> <li>作業労力を軽減する機器（アシストスーツ、自律走行運搬車等）の導入を支援する。（アシストスーツ、自律走行運搬車等）</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産業においても、ICT機器の開発が進められているが、主に遠洋漁業用のものであり、沿岸漁業が中心の北斗市水産業において、活用のできる機器等は少ない状況である。</li> <li>近年、養殖・定置網用の網清掃ロボットが開発される等の情報があり、定置網用の網清掃ロボットは北斗市水産業においても活用することができる可能性があることから導入に向けて情報収集や研究を行ったが、開発されていたのは養殖用の網清掃ロボのみであることが判明し、活用を希望する事業者はいなかった。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸漁業が中心の北斗市水産業においても、生産性の向上や省力化が可能なICT機器の開発が望まれていることから、北斗市水産振興対策協議会において、開発の動向を注視しながら、導入に向けた情報収集や調査研究を行っていく。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸漁業が中心の北斗市水産業では、省力化などが可能なICT機器の開発が望まれており、引き続き研究開発の動向を注視しながら情報収集を行っていく。水中ドローンについては進化が続いており、体力・技術が必要なウニ・アワビ漁に利用できる可能性がある。</li> </ul>		

② 地元農林水産物の特産品化、PR

A 中小企業競争力向上事業補助金 [水産商工労働課]		R2新規	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな顧客開拓のため、新商品の開発や展示会等への出展を実施する市内中小企業に対して、R1年度まで実施していた「展示会等出展支援事業」及び平成30年度まで時限制度として実施していた「新商品研究開発・普及促進支援事業」を統合、一部内容を拡充して新たに実施。</li> <li>・市内中小企業への様々な支援策のほか、教育機関（学）や函館地域産業振興財団等の公的資研究機関（官）との情報交換を行い、新商品開発等に係る産学官連携の推進を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 753,311	R3予算額 2,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度の実施状況としては、新商品開発部門で前期3件、後期1件の合計4件を認定し、今後も多くの活用が見込まれている。</li> <li>一方で展示会等出展部門に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により展示会が中止となっていることから、本年度の活用は1件にとどまっている。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの補助制度を周知し、活用を促しながら市内中小企業の意欲喚起を図る。</li> <li>・新たにオンライン展示会を対象にするなど、現在の経済動向等を踏まえ、柔軟な対応に努めながら、商工業者の意欲的な販路拡大、商品開発を支援していく。また、より多くの事業者の活用を促進するため、事業PR方法の改善をする。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの補助制度を周知し、活用を促しながら市内中小企業の意欲喚起を図る。</li> </ul>			

B ふるさと納税を活用した特産品PR [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税ポータルサイトを活用した、北斗市ふるさと納税PRを継続及び市内事業所へ返礼品登録の案内を行い、市特産品の登録を推進する。また、広報ほくとやSNS、新聞、雑誌など、様々な媒体でふるさと納税の情報発信を行い、返礼品として登録されている市特産品をPRする。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 41,340,000	R3予算額 54,893,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さとふる」に加え、R2年7月にふるさと納税ポータルサイト「<u>楽天ふるさと納税</u>」を新たに追加。</li> <li>・市内の事業者を実際に訪問するなど返礼品の登録を依頼し、新たに6事業者、65件の返礼品が新規登録となった。</li> <li>・市ふるさと納税の周知を図り、市特産品のPRを行う。</li> <li>・寄付件数 5,599件（対前年比120.4%）、寄付金額71,126,000円（対前年比118.2%）。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月中に新たなふるさと納税ポータルサイトとして「<u>ふるさとチョイス</u>」を追加登録する。</li> <li>・生徒が実習で生産した函館水産高校の「<u>缶詰</u>」や大野農業高校の「<u>りんご・米</u>」を新たに返礼品登録し、<u>実習の様子を動画配信</u>などによるPRを行った。</li> <li>・返礼品のラインナップの充実を図るとともに、既存返礼品の魅力向上に取り組む。</li> <li>・新規返礼品の追加や、ふるさとの納税PR等について返礼品事業者へ継続して協力依頼する。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、市内事業者に対し、付加価値やオリジナリティの高い特産品の返礼品登録を促し、返礼品の充実を図る。</li> <li>・各種情報媒体を活用し、市のふるさと納税と特産品のPRを行う。</li> </ul>			

C 北斗フィッシャリーの有効的な活用 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上磯郡漁協直営の北斗フィッシャリーを、市としても観光アイテムにおける水産分野の中心施設として捉え、旅行会社等へのPRや情報提供を推進していくことにより、観光業の振興や地域水産物のPR、消費拡大などを促進。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策による自粛により、来客が望めないことから当面休業となっている。フィッシャリーの経営も3年連続の赤字となり、抜本的な運営形態の変更を検討中。年度内に再開予定。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらず、R2に引き続き休業中である。漁組では本年開催の全国漁港漁場大会(10/5)時の視察場所に、北斗フィッシャリーがなっていることから、それまでには再開したい意向であったが、R3全国漁港漁場大会は新型コロナ感染拡大により中止となり、再開も新型コロナ収束後とされた。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁組では運営形態を変更するもののコロナ後には再開する考えであるが、ワクチン接種が進み感染者も落ち着いている現在、ウィズコロナを見通し早急に検討を進めなければならない。漁組による直接販売・ネット販売は要望も多く北斗フィッシャリーが上磯郡漁協の販売拠点となるよう誘導する。</li> </ul>		

③ 農林水産物の生産拡大に向けた新たな取組

A 醸造用ぶどう生産及び地域内加工によるブランド化支援事業 [農林課]		R3新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・醸造用ぶどうの生産については、函館市、北斗市、七飯町の2市1町で設立した「みなみおしま醸造用ぶどう産地振興協議会」において苗木の購入などの支援を実施しており、今後においても継続実施する。</li> <li>・地域の活性化にも貢献することになる醸造所（ワイナリー）の整備を検討している事業者に対して、国等の補助事業を活用した支援策を検討する。</li> <li>・ワイン振興の推進として、市独自の支援制度の策定に努める。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 10,000	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・醸造用ぶどう栽培 戸数：3戸 面積：10.65ha</li> <li>・みなみおしま醸造用ぶどう産地振興協議会の活動を通して、醸造用ぶどう栽培の振興及び発展並びに醸造用ぶどうの品質向上による産地としての競争力強化を図る。</li> <li>・果樹経営支援対策事業（苗木購入補助） 戸数：3戸</li> <li>・果樹未収益期間支援事業 戸数：3戸</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、醸造用ぶどうの生産について増加することが予想されることから、予め栽培適地の選定や当該農地の情報把握に努める。</li> <li>・地域ブランド化に重要な醸造所（ワイナリー）整備の動向について逐一状況把握に努め、整備を検討している事業者に対して、国等の補助事業を活用した支援策を検討。</li> <li>・農業振興地域整備計画及び農村滞在型余暇活動機能整備計画の見直し並びに支援制度の策定。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3事業を継続すると共に、新たな支援制度の運用開始予定。</li> </ul>			

B 北海道農業次世代人材投資事業 [農林課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度までの青年就農給付金事業から制度改正された事業で、従来から経営が不安定な就農初期段階の青年就農者（原則50歳未満）に対して、給付金（年間150万円/5年間）を給付する内容に大きな変更点はないものの、離農した場合の返還義務要件や給付期間中の中間評価の導入などが変更された。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 7,500,000	R3予算額 7,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営初期段階の不安定さを補い、営農に専念することができた。</li> </ul> 実績：150万円×4名、75万円×2名、合計750万円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡島総合振興局主催のおしま農業お仕事フェアに参加し、新規就農者の掘り起こしに努めた。（相談実績：8名）</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施予定 150万円×5名、合計750万円</li> <li>・渡島総合振興局主催のおしま農業お仕事フェアに参加し、新規就農者の掘り起こしに努める。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施予定 150万円×4名、75万円×1名、合計675万円</li> <li>・渡島総合振興局主催のおしま農業お仕事フェアに参加し、新規就農者の掘り起こしに努める。</li> </ul>			

C つくり育てる漁業の推進 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ高品質化推進事業 ウニの密度管理を適正に、かつ継続的に行うことにより藻場の回復を図る。(深浅移植: 3か所14t、コンブ母藻3基)</li> <li>・ホッキ貝漁場環境保全事業 海底の耕うんを実施し生育環境の改善を行いながら、モニタリング調査でのデータを活用して資源保護を図る。</li> <li>・アワビ資源回復事業 種苗放流により資源の維持を図るとともに、放流種苗が成長して将来的に母貝になり、二次発生が促されることで、資源の自然発生が期待できる。(アワビ種苗35mm 24,000個)</li> <li>・カキ養殖推進事業 新たな特産品として取り組んでいる漁家の経営安定を図るため、種苗(半成貝)の購入費の一部を助成する。</li> <li>・ナマコ増殖事業 近年、高値安定している貴重な磯資源であることから、資源の維持・増大を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 12,570,000	R3予算額 4,636,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ高品質化推進事業 ~ 深浅移植(11t)、コンブ種苗投入</li> <li>・ホッキ貝漁場環境保全事業 ~ 密度管理(耕うん45回)、資源量調査4日間</li> <li>・アサリ生息環境改善事業 ~ 漁場造成A=167㎡、ケアシエル散布・剥ぎ込み</li> <li>・アワビ資源回復事業 ~ 35mm種苗18,000個、30mm種苗8,750個放流</li> <li>・カキ養殖推進事業 ~ 種苗(半成貝) 56,000個分(H28施設導入分36,000、拡大20,000個)</li> <li>・ナマコ増殖事業 ~ 15-30mm種苗45,000個放流</li> <li>・こんぶ・わかめ養殖施設整備事業 ~ 養殖施設13セット(26基)設置(当別地区)</li> </ul> <p>漁業資源の維持が図られている。ナマコは現在船上からの放流であるが、着底率向上のための放流方法の調査・研究が研究機関において進んでいる。 養殖施設については、確実に漁獲量の増大につながり漁家の経営安定につながる。</p>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ高品質化推進事業 ~ 深浅移植(14t)、コンブ種苗投入</li> <li>・ホッキ貝漁場環境保全事業 ~ 密度管理(耕耘57回)、資源量調査4日間</li> <li>・アサリ生息環境改善事業 ~ 漁場造成A=186㎡、ケアシエル散布・剥ぎ込み</li> <li>・アワビ資源回復事業 ~ 30mm種苗14,000個、25mm種苗25,200個放流</li> <li>・カキ養殖推進事業 ~ 種苗(半成貝) 40,000個分(R2拡大分20,000個、R3拡大分20,000個)</li> <li>・ナマコ増殖事業 ~ 15-30mm種苗45,000個放流</li> </ul> <p>これまで「つくり育てる漁業」を継続して実施してきたからこそ、昨今、問題視されている環境変化等が懸念されても、一定の漁獲水準が保たれたと考えており、漁家においても継続を望む声が大きく、今後も現状に合った内容の事業に取り組む予定。</p>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ・ホッキ・アサリは多面的事業であり、国予算は減額予想であるが引き続き実施する。</li> <li>・カキは引き続き規模拡大分20,000個分400千円を見込む。</li> <li>・ナマコは放流数を増加させる計画予定であったが、漁組から予想外の75,000個増120,000個を提案されている。はまなす支所では漁獲枠があり数量の妥当性の検討を行う。</li> </ul>		

D 新規漁業就業者支援事業補助金 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修経費補助事業…漁業研修計画の認定を受けた方（研修生）に対し、北海道立漁業研修所で実施される総合研修を受講する際に要する経費の一部を補助。</li> <li>・船舶等取得補助事業…研修生や、漁業研修計画に基づく2年間の研修を終了し漁業経営を開始した方（漁業新規参集者）に対し、必要な船舶等の取得に要する経費の一部を補助。</li> <li>・新規参集者支援事業…漁業新規参入者に対し、経営が安定するまでの一定期間において経営に要する費用の一部を補助。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国漁業就業者確保育成センター等のホームページに支援対策が掲載されている。北海道においては「北海道漁業就業支援フェア」渡島振興局では「漁業就業支援フェスタinはこだて」が開催されているが、コロナ過でもあり相談件数が減少している。北斗市に相談はなかった。 後継者1名就業。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業に対するマイナスイメージはいまだに高く、漁業への新規参入者は現状では望めないため、他市町村の事例等を参考に後継者対策を考えたい。北斗市へ1名の新規就業希望者からの相談はあったが、年齢制限により本事業の利用はできない。 後継者2名、親族1名就業。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在漁業新規参入者にのみ補助を行うこととなっている船舶等取得補助事業を、漁業の担い手にも補助できるように要綱改正を検討し、R4年度は周知・要望聴取後、R5の予算化を目指す。</li> </ul>		

E 未整備森林現況調査事業 [農林課]		継続	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林経営管理法に基づき実施した、未整備森林所有者に対する経営管理意向調査の結果、今後の経営や管理を市に委託することを検討すると回答した所有者の森林の現況把握することが必要であり、森林環境譲与税を活用し未整備森林の整備に努める。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 4,510,000	R3予算額 4,314,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未整備森林現況調査業務 97小班（大野地区66小班、野崎地区31小班） ※調査対象計画筆数295筆（356小班（大野地区74、上磯地区282） R2年度からR5年度までの4か年で実施予定。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未整備森林現況調査業務 約110小班（添山、戸切地、大工川、中野、桜袋、水無、三好、柳沢、富川、館野）</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未整備森林現況調査業務 約110小班（矢不來、茂辺地、茂辺地市ノ渡、湯ノ沢） ※R5年度 約60小班（当別、三ツ石）</li> </ul>		

F 木育等奨励事業 [農林課]		R3新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境譲与税を活用した木育の一環として、地元の道南スギから製作された木材製品に触れてもらうことで、地元材の良さや森林の大切さを再認識してもらう。</li> <li>・取組初年度のR3年度は、<u>0歳児を対象</u>に出生祝いとして積み木を贈呈。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
		2,480,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・北斗市の0歳児人員数の過去10年平均が316.5人であることから、積み木310セット分（@8,000円/セット）を予算措置。</li> <li>・8月末までの贈呈実績：84セット</li> <li>・6/30に行われた市長からの「新生児への積み木の贈呈」が、新聞報道や広報ほくと8月号の表紙を飾り、また、北斗市のまちづくりを紹介する番組（HBC）にも取り上げられ、北斗市内外に広く周知された取組となっている。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>・出生祝いの取り組みは、今後も引き続き継続していく。</li> <li>・更に新たな取り組みを考案し、R4年度以降取り組んでいきたい。</li> </ul>		

④ 商工業事業者への各種支援策の推進

A 中小企業競争力向上事業補助金 [水産商工労働課] (再掲)		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな顧客開拓のため、新商品の開発や展示会等への出展を実施する市内中小企業に対して、R1年度まで実施していた「展示会等出展支援事業」及び平成30年度まで時限制度として実施していた「新商品研究開発・普及促進支援事業」を統合、一部内容を拡充して新たに実施。</li> <li>・市内中小企業への様々な支援策のほか、教育機関(学)や函館地域産業振興財団等の公的資研究機関(官)との情報交換を行い、新商品開発等に係る産学官連携の推進を図る。</li> </ul>		
事業費(円)	R2決算額 753,311	R3予算額 2,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<p>・R2年度の実施状況としては、新商品開発部門で前期3件、後期1件の合計4件を認定し、今後も多くの活用が見込まれている。</p> <p>一方で展示会等出展部門に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により展示会が中止となっていることから、本年度の活用は1件にとどまっている。</p>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの補助制度を周知し、活用を促しながら市内中小企業の意欲喚起を図る。</li> <li>・新たにオンライン展示会を対象にするなど、現在の経済動向等を踏まえ、柔軟な対応に努めながら、商工業者の意欲的な販路拡大、商品開発を支援していく。また、より多くの事業者の活用を促進するため、事業PR方法の改善をする。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの補助制度を周知し、活用を促しながら市内中小企業の意欲喚起を図る。</li> </ul>			

B 中小企業振興資金利子補給補助金及び信用保証料補給交付金 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の振興を図るため、運転資金(1,000万円以内)や設備資金(2,000万円以内)の融資を受けた事業に対して、利子補給率で年1.0%及び信用保証料の135分の100を助成。</li> </ul>		
事業費(円)	R2決算額 7,057,957	R3予算額 17,880,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存融資分182件と新規融資分37件の計219件の利子補給を実施、中小企業による制度の活用が図られた。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存融資分192件と新規融資分55件の計247件の利子補給を見込んでおり、継続して実施。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の継続実施。</li> </ul>			

C 商店街等元気づくり事業補助金 [水産商工労働課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者、高齢者及び女性の起業を支援するとともに、市内の空き店舗等を利活用する事業者に対し、既存商店街及び人口減少が著しい地域等の活性化を図る目的として、事務所や店舗を営業する場合の改築費用等を補助する。</li> <li>・市内空き店舗27件（R2.9月末）※店舗併用住宅含む。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 10,020,000	R3予算額 45,015,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響から新たに起業を考える事業者は皆無と考えていたが、あえてこの時期に前向きな取組に挑戦する事業者が多く、4件が新たに起業した。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の実績を踏まえ、9件の活用を想定しており、かつ、これまでの事業形態等を鑑みて、補助要綱の一部改正を行った。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業については制度検討中からみらい基金を財源にした継続事業を想定しており、少なくとも累計事業費として1億円程度を考えている。</li> </ul>		

D 本町商店街活性化事業補助金 [水産商工労働課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町商店街の振興を図るため、本町商店街への新規参入や既存商店の業種転換する場合、500万円を限度として、その経費の2分の1を助成。</li> <li>・交付実績 ～ H27年度1件、H28年度2件</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 5,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページで周知を図るが、実績なし。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町商店街への新規出店等への補助 1件【R3.7.28交付決定 補助金額5,000千円 ペットサロン】</li> <li>・大野市街通整備工事終了に伴い、今年度をもって終了予定であったが、これまでの事業実績及び当該路線の現状等を考慮し、事業継続に向け検討。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の継続実施に向け検討。</li> </ul>		

E 函館地域産業振興財団へのさらなる協力 [水産商工労働課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・函館地域の産業振興に寄与する公的団体である函館地域産業振興財団へ市も構成員として参画し、必要な負担金を拠出し、当該団体事業の円滑化を図っている。</li> <li>・函館地域産業振興財団が中心となり、函館地域の中小事業者等への技術相談や創業支援など様々な企業支援を行いながら地域経済の活性化に取り組んでおり、市も地元企業への情報提供等を中心とした協力を推進するものである。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 9,103,167	R3予算額 10,011,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な函館地域産業振興財団事業として、</li> <li>①新技術、新製品の開発や起業化促進のための商品化に研究開発費等を助成</li> <li>②技術PR、販路拡大のための展示会やイベントへの参加に助成</li> <li>③共同研究、受託研究、依頼試験・分析などを通じて技術開発を支援</li> <li>④産業技術に関する研修会の開催や研修生の受入れなどにより人材育成の支援など</li> <li>その他、道立工業技術センター、函館市産業振興センターの管理運営。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・函館地域産業振興財団にて取り組む創業バックアップ事業に市内事業者が応募し採択されたため起業・創業支援費の負担する（R3.7.1：1件採択 助成金額3,000千円 農業及び製造業（ブドウ栽培・ワイン製造））。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して函館地域産業振興財団と連携しながら各種事業等に協力していく。</li> <li>・函館地域産業振興財団にて取り組む創業バックアップ事業については、継続して函館地域の創業者や将来創業する潜在的な創業者に対する育成、支援を行うことにより、開業率の向上と創業数の増加を図り、効率的に起業者の成長を促進し、地域経済活性化の実現を目指す。</li> </ul>		

基本目標2	北斗市らしさを活かして人を呼び込み、呼び戻す ～ 新しい人の流れをつくる ～
-------	---

数値目標：社会動態の均衡

※1年間で北斗市へ転入した人数と北斗市から転出した人数の差を0とする。

※住民基本台帳人口（外国人を含む）



施策(1)	市民総ぐるみによるシティプロモーションの推進
・市民総ぐるみによるシティプロモーションの展開により、本市の魅力や優位性を全国に発信し、認知度の向上を図るとともに、文化やスポーツを活用した持続的なプロモーション施策を実施する。	

【施策の評価】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、シティプロモーションに関する個々の事業を予定どおり実施することができず、KPIについては停滞している。 ・ホームページアクセス数は、新型コロナウイルス関連情報の閲覧や情報発信力の強化により増加している。
--

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・「HOP Star Project」に基づくイベント等開催回数	—	0回 (R2)	15回
・「HOP Star Project」参加事業者数	14事業者 (R1)	14事業者 (R2)	30事業者
・ホームページアクセス数	53,983回/月 (H30平均)	76,750回/月 (R2平均)	65,000回/月

① 戦略的な情報発信

A	ホームページや広報ほくとなどを通じた情報発信の強化 [企画課]	継続	既存事業
事業概要	・庁内の情報発信戦略会議における効果的な情報発信方策の検討や職員研修会の開催による情報発信力の強化を図るとともに、ホームページでは即時性の高い情報発信に努め、広報ほくとは市民感覚による編集に努め、内容充実を図る。 ※事業費は、職員研修会開催に要する経費。		
事業費 (円)	R2決算額 200,000	R3予算額 200,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  ・情報発信戦略会議が単なる広報ほくとへの掲載記事の確認の場にとどまらず、SNSの活用など効果的な情報発信方策を庁内横断的かつ積極的に検討するよう職員への周知に努めた。 ・イベントや市の施策など時期に合わせたキービジュアルの掲載を引き続き実施した。 ・新型コロナウイルス関連ページは、更新記事が乱立して見えにくくなることを回避するために、支援制度などをまとめたコンテンツを立ち上げるなど工夫した。 ・広報ほくとは、本市の豊かな自然やまちの動き、市民の表情が伝わるよう表紙をカラー化し、被写体の幅を広げた。 ・ホームページ訪問者数/921,004（前年比134%） ページビュー/2,297,727（前年比137%）		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  ・広報誌やホームページの更新情報をリアルタイムで閲覧可能なアプリ「マチイロ」を導入し、ダウンロードを促進。 ・市民目線・市民感覚による見やすく、分かりやすい情報発信に努め、来庁者向けのデジタルサイネージを活用した情報提供に努める。 ・市内の3校の小学生が行政課題の解決策を考える特集記事を掲載し、市民協働のまちづくりに資する意識醸成を図る。 ・市ホームページは即時性を活かした行政情報の発信に努める。 ・電子申請サービスができる手続を増やす。		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  ・発信する情報のターゲットや効果的な情報発信方法について、引き続き検討する場として戦略会議を継続。		

B イベントの出展や広告媒体を利用した魅力の発信 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客力の高いイベント等における出展や効果的な広告掲載、首都圏等の大型ビジョンやテレビCM、SNS等によるPR動画を放映する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 8,373,000	R3予算額 13,737,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽プロモーション（番組の制作・放送）により、「音楽のまち・ほくと」の取組を全道に発信。</li> <li>・10月の「秋のHTB南平岸ドライブスルー2020」に参加し、コロナ対策を徹底した上で、本市の特産品の販売、パンフレット配付によるPRを実施した。また、イベント実施にあたり、テレビ出演による周知やCM放映を実施。</li> <li>・北海道生活やJP01などの情報誌への広告掲載により、豊かな自然や暮らしやすい生活環境、恵まれた立地環境など本市の魅力発信。</li> <li>・「さっぽろ雪まつり」など新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していたシティプロモーションが実施できない中、芸人によるPR用動画の制作や首都圏の情報番組への出演、ラジオの時報広告などを実施。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市のまちづくりを紹介する番組を8月に全道放映。</li> <li>・市民の音楽活動に関するドキュメンタリー番組の制作による「音楽のまち・ほくと」を掲げたプロモーションを実施。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020オリンピック聖火リレー等、各種イベントの中止が続いているが、状況を踏まえ実効性の高いプロモーション事業の実施を検討。</li> <li>・北海道生活やJP01などの情報誌への広告掲載により、豊かな自然や暮らしやすい生活環境、恵まれた立地環境など本市の魅力の発信を継続。</li> <li>・自治体情報サイトなどへ本市の施策を紹介する記事掲載を積極的に行う。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訴求力や発信力の高い媒体の活用や、効果的な広告掲載、テレビやラジオ、SNS等での効果的な情報発信を検討。</li> </ul>			

C ずーしーほっきーを活用した情報発信 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市公式キャラクターである「ずーしーほっきー」を活用し、市内外イベントでの着ぐるみ出動や公式Facebookの記事投稿により、多方面への効果的な情報発信を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,980,000	R3予算額 1,322,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、市内外問わずイベントが規模縮小や中止となったため、着ぐるみ出動回数が大幅に減少、Facebook記事投稿件数も減少している。</li> <li>・市内小中学校の行事等への派遣要望を調査し、部活動の企画等に参加（2回）。</li> <li>・コロナ禍における新たな展開として、市内での文化・スポーツ活動をPRする取組を検討し実施。</li> <li>・着ぐるみ運用業務（道内14件、道外3件）、Facebookによる情報発信（39回投稿、フォロワー約8,100件）</li> <li>・着ぐるみ4号機を制作。</li> <li>・ずーしーほっきー利用許諾件数：16件。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・木古内町の「キーコ」とのコラボ動画をYouTubeで発信する等、北斗市の魅力を発信。</li> <li>・SNSを活用した新たな展開として、文化・スポーツ活動の動画撮影によるFacebookへの投稿件数増を試みる。</li> <li>・民間等の事業活動におけるずーしーほっきーの利活用を促進するため、広報誌等による周知を図る。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による今後の社会情勢が不透明であり、イベントへの出動回数はすぐに回復しないことが見込まれることから、市内での活動によるフォロワー数増加、効果的な情報発信の手法を検討。</li> </ul>			

② コンベンション等の開催誘致

A コンベンション等誘致事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	3本の柱の1つに掲げている「コンベンション等誘致事業」として、全道・全国規模の会議やイベントに関する開催情報の調査・収集を実施する。 また、会議やイベント、スポーツ大会等の受入施設として、かなで〜るや体育施設の活用促進に向けたPRと誘致活動を実施する。		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業執行停止。 ・北斗市誕生15周年を記念し、NHKのど自慢のR3年度開催を誘致。		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等 ・全道高校ラグビー大会 (R3.9月)、全道高校駅伝大会 (R3.10月) が北斗市開催であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会会場等でのシティプロモーション活動ができない状況。 ・NHKのど自慢の開催 (10月3日) により、北斗市の魅力を全国にPRした。		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性 ・R5年度に全国高校総体相撲大会が北斗市で開催され、全国から選手や関係者が訪れることから、大会時にシティプロモーションを実施。		

B HOP Star Project事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	・3本の柱の1つに掲げている「コンベンション等誘致事業」として、市内の事業者や関係団体等と連携し、全市をあげておもてなしを行う「HOP Star Project」を展開する。		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、シティプロモーション推進会議の開催は見合わせた。		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等 ・10月3日開催の北斗市誕生15周年記念イベント「NHKのど自慢」や中止となった東京2020オリンピック聖火リレー等の際に「HOP Star Project」を展開する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性 ・新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、実施の可否や方策を検討しながら事業継続。		

③ アーティスト誘致による魅力の呼び込み

A アーティスト誘致事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<p>3本の柱の1つに掲げている「アーティスト誘致事業」として、全国的に人気のある歌手、ミュージシャン等のライブや、オーケストラ、ミュージカル等の公演など、様々なエンターテインメントの開催を実施し、北斗市の認知度向上を図るため、ライブやイベント等を主催するプロダクションへの情報提供や開催支援による誘致活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなで〜るなど、市内にある鉄道路線の公共施設で開催される催しなどででの鉄道利用を呼び掛ける。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 13,737,000	
R2	<p>事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、各種誘致活動は未実施。</li> </ul>		
R3	<p>事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有名アーティストの公演等が行われているが、コロナ禍の影響でシティプロモーションの実施は困難な状況。</li> </ul>		
R4	<p>予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、実施の可否や方策を検討しながら継続。</li> </ul>		

④ 北斗市ならではの文化やスポーツを活用したPR

A 文化・スポーツを活用したPR事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の強みである吹奏楽をはじめ、活動が盛んな音楽やスポーツを素材としたPRツールを制作し活用することで、交流人口及び関係人口の増加、認知度向上を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 8,373,000	R3予算額 13,737,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本吹奏楽コンクールで5年連続6度目の金賞を受賞した北斗市立上磯中学校吹奏楽部の取組を紹介する番組の制作及び放映を実施し、放映後DVD化しふるさと納税の返礼品とすることで本市のPRに活用した。</li> <li>・1週間の限定公開としてYouTubeで配信した2度の無観客演奏会は、それぞれ3万回近い再生回数を記録した。</li> <li>・新たにオープンしたフットボール場をはじめ、スポーツ施設の充実性をPRする動画を制作し、配信。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽のまち・ほくと」の取組を紹介する番組の制作及び放映を実施し、DVDをふるさと納税の返礼品とすることで本市のPRに活用。</li> <li>・市のスポーツ施設を紹介する動画制作及びYouTubeチャンネル「北海道北斗市役所」へのアップにより、PRを継続。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の音楽活動に関するドキュメンタリー番組の制作等による「音楽のまち・ほくと」を掲げたプロモーションの実施を検討。</li> <li>・市のスポーツ施設を紹介する動画制作等により、PRを継続。</li> </ul>		

施策(2)	移住・定住の促進と人材不足の解消
<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の社会動態の改善に向けた移住・定住の促進と市内事業所の人材不足解消を図るため、効率的かつ効果的なプロモーションと移住支援制度を実施し、若年層の回帰につながる施策を展開する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、移住プロモーションは予定を変更して実施し、進捗が遅れている状況であるが、拡充した支援制度のさらなるPRが必要。</li> <li>外国人技能実習生の住民登録数は、平成30年4月の166名からR3年3月の245名と大幅に伸びており、外国人材の受け入れのため全庁横断的な体制で受入環境の整備を図る必要がある。</li> </ul>
---

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・本市への移住検討者数（移住プロモーションにおける相談者等）	—	10人 (R2)	500人
・移住・定住対策支援事業による市内移住・定住者数	—	28人 (R2)	250人
・外国人技能実習生受入数	—	245人 (R2)	450人

① 移住プロモーション活動の実施

A 移住プロモーション事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題性や集客力の高い首都圏等における移住相談会やセミナーを開催する。</li> <li>・近隣市町との連携による広域的なプロモーションを実施する。</li> <li>・自前での移住ポータルサイト開設により、最新の情報を提供する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 960,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住相談会やセミナーは新型コロナウイルス感染症の影響により、事業執行停止中。</li> <li>・移住・定住ポータルサイトのリニューアルオープンに向け作成作業を実施。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住・定住ポータルサイトをリニューアルし、新たなコンテンツとしてワーケーションを追加。</li> <li>・Zoom等を活用したオンライン移住相談会の実施（7月31日：実績1人）。</li> <li>・北海道型ワーケーション誘致事業への参画により、渡島広域でのプロモーションを実施。</li> <li>・北斗市独自でもワーケーション誘致に向けた取組みを検討し、本市の魅力発信と関係人口や交流人口の拡大を図る。</li> <li>・東京での北海道移住・交流フェア2021（11月）への参加を予定している。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、広域連携を図り、集客力や話題性のある移住相談会やセミナーの開催を実施。</li> </ul>			

B 福祉職人材回帰マッチング事業 [企画課]		廃止	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護や保育などの福祉施設における人材不足解消と、若年層の転入を促進するため、道央圏の学生を対象として、市内事業所とのマッチングを図る。</li> <li>・介護や保育などの公的サービスが将来にわたって安定的に提供され、介護離職の抑制や保護者の就職機会拡大を図り、市民所得の向上に繋げる。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、道央圏からの参加、高齢者や園児との接触が困難なことから、事業実施の見通しが立たず中止した。また、R1年度の実施結果からも成果が上がっておらず事業を廃止することとした。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		

② 移住・定住促進支援事業の実施

A 北斗市空き家バンク事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の有効活用と移住・定住の促進を目的として開設している制度の利用促進を図り、「北斗市・移住定住推進協議会」と連携しながら登録物件数の増など円滑な運用を推進。</li> <li>・北斗市空き家バンクの登録物件を居住目的で購入、又は賃貸する方に対し、世帯構成等に応じた加算措置を設け、購入費用等の助成を行う「空き家バンク利活用事業補助金」を制度運用。</li> <li>・空き家バンクを活用し、空き家の有効活用と移住・定住者支援の充実を図る。また、円滑運用を図るため、北斗市移住・定住推進協議会の活動費を助成。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 5,600,000	R3予算額 8,700,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンク11件新規登録のうち8件が成約。</li> <li>・協議会活動費の助成は、2事業者2度の現地確認に対し交付し、空き家バンクの登録物件数の増加につながった。</li> <li>・空き家バンク利活用事業補助金は、10世帯へ5,600,000円交付し、27名の定住につながった。(子育て加算3件、茂辺地地区加算1件)</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンク7件新規登録のうち1件が成約。</li> <li>・協議会活動費の助成は、2事業者2度の現地確認に対し交付予定。</li> <li>・空き家バンク利活用事業補助金は、3世帯へ1,800,000円交付し、4名の定住につながった。(子育て加算3件、茂辺地地区加算1件)</li> </ul> ※実績は9月15日(水)時点			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内空き家解消のため、市内業者・庁内各部署と連携し、物件登録の推進を図る。</li> <li>・必要に応じて空き家バンク利活用事業補助金の見直しを行いながら、事業を継続。</li> </ul>			

B 移住・定住促進支援事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住定住促進と、市内事業所の人材不足の解消を図ることを目的に、市内の事業所に正規雇用として新規採用された移住者へ、引越し等に要する費用として一律10万円を交付する移住就業支援交付金。</li> <li>・東京23区からの移住者に対し、要件を満たした場合、最大で100万円を交付し、首都圏からの移住促進を図るUIJターン新規就業支援事業支援金。(国の地方創生推進交付金を活用した北海道UIJターン新規就業支援事業の対象市町村として参画)</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 50,000	R3予算額 1,600,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住就業支援交付金 1件1名(50千円)へ交付し、移住につながった(恵庭市から転入)。周知を行っていくとともに、制度の見直しを行う。</li> <li>・UIJターン新規就業支援事業支援金 実績なし。周知活動においても、新型コロナウイルス感染症の影響で、首都圏からの移住者を積極的に募るのは適切ではないと考え、未実施。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住就業支援交付金 交付金額を増額した(1件:50千円⇒100千円)。</li> <li>・UIJターン新規就業支援事業支援金 引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ周知を行う。</li> <li>・制度の利用促進を図り実効性を高めるため、商工会を通じて市内の事業者にも周知用チラシを配付。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住・定住促進事業について周知し、市内事業所の雇用及びUIJターンの促進を図る。</li> </ul>			

C 奨学金償還支援事業 [企画課]		R3新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層のUIJターンを促進し、人口の社会動態の改善と地域の人材不足解消を図るため、日本学生支援機構などの奨学金の償還額の一部助成制度を創設する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	-	9,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層のUIJターンを促進するため、奨学金償還支援事業について対象者の要件や補助金額、期間などの制度設計を行った。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新制度としてスタートし、10月12日時点で12名が申請済み。</li> <li>・広報やHPの他に、近隣の専門学校や大学等にチラシを配付し周知を図った。</li> <li>・成人式等の制度活用が見込まれる世代が集まるイベント時にチラシの配付等を行い周知を図る。</li> <li>・制度の利用促進を図り実効性を高めるため、商工会を通じて市内の事業者に周知用チラシを配付。</li> <li>・日本学生支援機構のHPや自治体情報サイト等へ制度概要を掲載。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度の実績を踏まえ、引き続き制度の周知を行い、若年層のUIJターンの促進につなげる。</li> </ul>		

D 若年層の回帰につながる奨学金制度の利用促進 [学校教育課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層の転出超過対策として、大学卒業後、北斗市に居住し就職した場合、北斗市奨学金の償還を免除するもの。</li> <li>・財源として企業版ふるさと納税制度を活用する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	11,611,750	14,832,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金制度の拡充に向けた条例改正。</li> </ul> <b>【拡充内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学一時金の貸付</li> <li>奨学金申請時の所得基準額の緩和</li> <li>成績優秀者に対する入学一時金の償還免除</li> <li>卒業後（又は制度施行後）北斗市に居住し就職した場合の償還免除</li> <li>・広報誌やホームページ、大学等へのチラシ配布により制度周知の実施。</li> <li>・企業版ふるさと納税制度の活用に必要な地域再生計画を作成し、国から認定を受けた。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡充した奨学金制度の運用開始。</li> <li>・制度該当者への北斗市奨学金の償還免除の実施。</li> <li>・広報誌やHP、大学等へのチラシ配布により制度周知の実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度周知を図る（広報誌やHP、大学等へのチラシ配布）。</li> </ul>		

③ 外国人雇用企業への支援と受入環境整備

A 外国人材の受入環境の整備 [水産商工労働課]		R3新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人雇用企業の実態把握とニーズ調査、支援方策を検討する。</li> <li>外国人材の受入環境の整備に向け、全庁横断的な体制を構築する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  ・外国人雇用企業の実態把握のため、雇用状況等に関するアンケート調査を実施する予定であったが、コロナ禍での状況等を踏まえ、次年度の実施に延期した。		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  ・雇用状況等に関するアンケート調査の結果を踏まえ、日常生活における課題や暮らしに関する各種手続き、町内会活動への参加呼びかけなどについて、受入企業と情報交換を行い、受入環境の整備に向けて水産商工労働課や市民課をはじめ全庁横断的な検討を行うとともに、その支援方策の実施に向け協議を進める。 ・雇用状況等に関する中小企業へのアンケートについては、年度内の実施に向け調整中。		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  ・今後も市内中小企業の雇用状況等の把握に努め、そのニーズに沿った支援を推進する。		

施策(3)	交流人口の拡大と関係人口の創出
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・スポーツ施設を活用した合宿誘致などによる交流人口の拡大と、多様な形で北斗市と関わり、将来的な移住にもつながるような関係人口の創出・拡大に向けた施策を展開する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ合宿に係るKPIの進捗は停滞しているが、新型コロナウイルス感染症の収束期を見据え、誘致活動を継続することが必要。</li> <li>関係人口については、位置付ける具体的数値項目を定義し、創出・拡大に向けた取組の強化が必要。</li> </ul>
--

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・合宿による延べ宿泊者数	4,221人 (H30)	3,902人 (R2)	5,000人
・関係人口	—	—	具体的数値項目を定義し、増加を図る

① 文化・スポーツ施設を活用した交流人口の拡大

A スポーツ合宿推進事業 [観光課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道新幹線をはじめ、陸、海、空の交通アクセスの利便性や、道内において冬は温暖で積雪が少なく、夏は冷涼な立地特性を生かすとともに、市内スポーツ施設の有効活用と民間宿泊施設の利用を推進することにより、滞在型スポーツ振興による交流人口の拡大と、地域経済の活性化を図る。</li> <li>市内宿泊施設に5人以上で2泊3日以上宿泊をされた場合、1泊あたり1人2,000円の補助を行っている。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 12,458,190	R3予算額 14,254,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>47団体、実人員1,200人、延べ宿泊数3,902泊 (R1：49団体、実人員1,063人、延べ宿泊数3,322泊)</li> <li>全体の37%は陸上競技、R2に開設したフットボール場を利用したサッカー・ラグビーは34%で前年度の11%から大幅に伸びた。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策として補助金制度を現行の1泊2,000円から最大5,000円まで引き上げる拡充措置を行うなど誘致に努めた結果、延べ宿泊数は4,000泊に迫る勢いとなった。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>合宿による新型コロナウイルス感染症の市内での感染リスクを回避するため、緊急事態宣言やまん延防止措置が発令されている場合の受入れについては中止する措置を図っている。</li> <li>このほか合宿予定日14日前から前日までにおいて関係者が陽性者や濃厚接触者に認定された場合も不可としている。</li> <li>見込み数は、57団体、実人員1,400人、延べ宿泊数3,989泊で制限によりキャンセルは発生しているが、フットボール競技などの需要により、一定程度の受入れを見込んでいる。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>合宿団体は、市内の宿泊施設を利用することから新型コロナウイルス感染症の直撃を受けた事業者の一助にもなっている。</li> <li>引き続き合宿誘致と新型コロナウイルス感染症拡大防止のバランスを図りながら誘致事業を進める。</li> </ul>		

B 「音楽のまち・ほくと」の推進 [社会教育課] [企画課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<p>・交流人口の拡大を目指したまちづくり事業の一環として、「音楽のまち・ほくと」を掲げ、総合文化センターを拠点施設として、様々な文化芸術事業を展開する。 事業実施主体：北斗市かなで～る協会</p>		
事業費 (円)	R2決算額 584,700	R3予算額 700,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、北斗市音楽祭以外の多くの事業が中止となった。 【かなで～る協会主催・共催事業の中止】 ①陸上自衛隊第11音楽隊演奏会②2020音楽セミナー③ルパンジャズライブ④スターダストレビューコンサート⑤海援隊コンサート</p>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<p>・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、事前の健康チェック、当日の検温、手指の消毒など基本的な感染対策を講じ、演劇公演や音楽コンサートを開催する。 【かなで～る協会主催・共催事業】 ①陸上自衛隊第11音楽隊演奏会【中止】②チームナックス舞台公演③きかんしゃトーマスファミリーミュージカル④山崎まさよしコンサート⑤大井健ピアノリサイタル⑥ルパンジャズライブ ・「北斗紅葉回廊」においてミニコンサートを開催し、音楽によってイベントの付加価値を高め、集客力の向上を図る。</p>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<p>・引き続き、さまざまな音楽分野の演奏会や芸術文化公演を計画するとともに、「音楽のまち・ほくと」を掲げ、R2年度に開催を予定し、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった、音楽クリニック「北斗音楽セミナー」をR4年度の実施に向け、再検討する。（主催：北斗市吹奏楽連絡協議会、共催：北斗市かなで～る協会） ・音楽教育や市民が音楽に親しむ機会の創出を企画・運営する専門的人材を任用し、「音楽のまち・ほくと」のさらなる展開を推進する。</p>			

② 近隣市町と連携したスポーツ施設の活用

A スポーツ合宿推進事業（広域連携）〔観光課〕		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ合宿のうち球技による試合相手のマッチングの調整を行う。</li> <li>・北斗市内でスポーツ合宿を希望する団体が、市内スポーツ施設が利用できなかった場合などにおいて、その不足分を近隣市町と連携し、調整・確保する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により思うような広域連携が図られなかった。</li> <li>・試合相手のマッチング：0団体、施設が飽和状態時の他市町村への紹介や調整：0団体、近隣市町との広域連携協議：0回（函館市、七飯町）</li> <li>・どのような合宿が来訪しているのかを公表するなど、球技における試合相手のマッチングにつながる仕組みを作るきっかけづくりとするため合宿状況を把握できる予定表の公表を市のHPでR2年6月にアップした。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ、近隣市町と連携し、情報交換を行う。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、球技場の場所の特性を活かした団体の誘致を図り、試合相手のマッチング調整を行う。</li> </ul>		

③ 北斗市に関心のある人との関係構築

A 関係人口の創出と拡大 [企画課]		R2新規	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係人口に位置付ける具体的数値項目を定義し、関係人口の創出・拡大に向けた個々の取組を強化する。</li> <li>・北斗市にゆかりのある方やふるさと納税寄附者などを対象とした本市との継続的なつながりを維持する取組を推進する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係人口とは、観光で地域で訪れる交流人口と長期的に住む定住人口の中間的な概念であり、地域との幅広い関わり方で、地域の課題解決や将来的な地域移住につながることを期待される。</li> <li>・ふるさと納税寄附者に対し返礼品へ案内チラシを同封したり、広報ほくとの市外発送にふるさと納税ポータルサイトの案内やQRコードを掲載した封筒を用いるなど、継続的なつながりを維持するための取組を始めた。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	※関係人口に位置付けする具体的数値項目は、資料2のとおり		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係人口の創出と拡大に向けた取組を継続して実施。</li> </ul>		

基本目標3	子どもを生み、育てたいという希望をかなえる ～ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～
-------	--

数値目標：合計特殊出生率

※15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が一生の間に生む子供の数。



施策(1)	子育て支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北斗市では、高校生までの医療費の無料化をはじめ、先駆的な子育て支援施策を展開しているが、今後も妊娠・出産・子育てと切れ目のない子育て支援の充実を図る。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の事業では効果が認められるものもあるが、出生に関する指標値は減少傾向。</li> <li>・人口減少問題に係る指標の達成には時間を要することから、関連する事業の継続と拡充に向けた検討が必要。</li> </ul>
--

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・妊娠・出産について満足している者の割合	※ 87.5% (R1)	91.6% (R2)	95%
・子育てアプリ登録者数	470名 (R2.1)	608名 (R2)	970名
・ファミリーサポートセンター事業会員数	814名 (H30)	779名 (R2)	900名
・潜在的待機児童数 (北海道定義、年度当初)	11名 (H31年度当初)	24名 (R3年度当初)	0名

※ 健やか親子21（厚生労働省管轄）のアンケート結果（R1.12実施）による

① 妊娠期から安心して生み育てるための支援

A	妊娠・出産包括支援事業〔子ども子育て支援課〕	拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子手帳交付時の全妊婦面接により、妊娠出産育児に不安のある対象者を把握する。</li> <li>・対象者を把握し、支援計画作成後、助産師・保健師の訪問等を実施しながら必要な対象者には、育児の経験のあるヘルパーが相談を受けながら、家事援助や育児支援を実施する産前産後支援ヘルパー派遣事業や産後ケア宿泊事業を推進する。</li> <li>・産後うつ等の予防や新生児への虐待予防等を目的に産後2週間・1カ月の産婦健診の受診率の向上に努める。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 6,031,569	R3予算額 4,754,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠届け出者数232人全てに面接しアンケートを実施している。101人（43.5%）が何らかの支援が必要であった。昨年よりも届け出数が18%少なく、支援必要者は8.5%多くなっている。</li> <li>・産前産後支援ヘルパー派遣事業利用者は、実数59人延べ202人だった。実数は昨年度の2倍以上だった。</li> <li>・産後ケア宿泊事業利用者は、1人3人の利用にとどまった。</li> <li>・産婦健康診査は、301人。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度は、支援が必要な人が増加しているにも関わらず、利用されていない産後ケア事業について、宿泊型の他に訪問型を導入し、事業拡充を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な妊産婦及び子を含む家族への支援がタイムリーに提供できるよう、他の係と連携し、既存の事業の充実を図る。</li> </ul>		

B 不妊治療助成事業 [子ども・子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療助成事業は、H28年度から道の助成に上乗せ助成している特定不妊治療費助成と市単独助成の一般不妊治療費助成を実施。</li> <li>・H29年度からは、道の不育治療費助成事業に市が上乗せして実施している。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	1,925,115	2,800,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般不妊治療実数12人（妊娠5名、出産4名）特定不妊治療9人（妊娠1名）</li> <li>・不育治療について、H29年度から助成事業実施し、実数1人。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般不妊治療実数15人、特定不妊治療11人、不育治療1人で予算計上した。</li> <li>・不育治療について、H29年度から助成事業実施。</li> <li>・国の所得上限（750万）撤廃に伴い、北斗市も一般・特定不妊治療の所得制限を撤廃した。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業について、R2年度 23%の妊娠率、R3年度 42.9%の妊娠率だった。少子化対策としては効果的な事業と考える。R4年度から保険適用となることから、自己負担額の軽減を検討する。</li> </ul>		

② 子どもを安心して育てられる環境づくり

A 子育てアプリ配信事業 [子ども子育て支援課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンを活用した、子育て支援アプリを配信することにより、母子手帳の補完的な役割を果たすとともに、各種予防接種や健診の実施案内、子育て向けイベント情報を配信し、情報提供に努める。</li> <li>・配信事業者の情報サイトである子育てタウンや北斗市のホームページと連携し、子育て情報や行政情報などを配信。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 462,000	R3予算額 770,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配信3年目。北斗市子育てアプリ「ママフレ」を配信し、毎週1回プッシュ機能にて子育てに関することについて配信した。3月末で登録者数が608人。1年間116人の増にとどまった。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年7月更新時期。妊娠期からの母子手帳機能の充実、母親のみのアプリではなく、父親や祖父母等との成長記録や写真を共有でき、子育て情報がシェアできる子育てアプリ「母子モ」と契約する。利用者の増を目指し、子育てに必要な情報を当課のみならず、他課の情報もタイムリーに配信していきたい。</li> <li>・登録者数：運用開始7/1は96名、9/30時点で257名。他の自治体よりも早いペースで登録者数が増加している。アクティブユーザーは約半数。1歳、2歳の登録が多い。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てアプリの配信について、地域の子育て情報の積極的な配信を検討。</li> <li>・1週間に1回のプッシュ配信を継続。</li> </ul>			

B ファミリーサポートセンター運営委託事業 [子ども子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援を行いたい人と受けたい人を会員として組織し、会員相互の育児に関する援助活動等を行う。</li> <li>・幼稚園や学校、児童クラブなどの開設時間外の託児や送迎、家族の看病や買い物時間などの託児を行う。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 4,000,000	R3予算額 4,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録会員数は779名（依頼会員：584名 提供会員：142名 両方会員：53名）で延べ896件の利用（保育終了後や児童クラブ終了後の子どもの預かり等）。</li> <li>・昨年度より利用数が366人減少している。コロナ禍で事業中止時期はなかったが自粛傾向と考える。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月末現在、登録会員数745名（依頼会員：546名 提供会員：154名 両方会員：45名）延べ292件（対前年比74.9%）。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも子どもの預かりの需要は変わらないので、感染対策を徹底し事業継続。</li> </ul>			

C 親子ふれあいブックスタート事業 [子ども子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か月健診時に、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施し、その絵本をプレゼントすることで家で読み聞かせによる赤ちゃんとの保護者の楽しいふれあいのきっかけづくりとする。</li> </ul>		
事業費(円)	R2決算額 241,750	R3予算額 255,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診にて、赤ちゃんとの保護者の親子の触れ合いのきっかけづくりとして読み聞かせサークルの協力により実施。</li> <li>・年24回実施（月2回、2会場）の予定であったが、緊急事態宣言等の影響により、読み聞かせサークルによる読み聞かせが3月から7月まで中止となった。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診にて、赤ちゃんとの保護者の親子の触れ合いのきっかけづくりとして読み聞かせサークルの協力により継続実施。</li> <li>・年24回実施（月2回、2会場）予定。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんとの保護者の親子の触れ合いのきっかけづくりとして事業継続。</li> </ul>		

D 子育て短期支援事業 ショートステイ・夜間養護等事業（トワイライトステイ）事業 [子ども子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が仕事、その他の理由により平日の夜間や休日に不在となり家庭で子どもを養育することが困難となった場合の子どもの受入れを行う。</li> </ul>		
事業費(円)	R2決算額 0	R3予算額 150,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実績なし。利用希望者はいたが、新型コロナウイルス感染症により、委託先の業務縮小があった。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は、H30年度のみ2桁の人数だったが、他の年は、4人程度でR2年は利用者がいなかったため、ショート3人、トワイライト3人分で予算計上した。7月末現在利用希望者はいない。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は少ないが、保護者の病気等の急な事案や、要保護児童等の支援に対応するため必要なことから継続実施。</li> </ul>		

E こんにちは赤ちゃん事業 [子ども・子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健推進員が生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、子育て相談や保健事業の情報提供などを行う。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 148,500	R3予算額 150,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、乳幼児健診が一時延期になる中、4か月までの赤ちゃん訪問を延べ297件実施し、必要があれば保健指導へ繋がる活動を実施。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健推進員の減少により、担当地区を超えた訪問体制とし、コロナ禍で外出する機会が減少した、子どもや家族の現状を把握する。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待予防の事業として、家庭の状況や保護者の状況確認のため事業継続。</li> </ul>		

F 養育支援訪問事業 [子ども子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親や子どもに病気がある場合や家族を含む養育環境が整っていない場合など、出産直後に産科医療機関から連絡があった家族について、保健師や助産師が訪問し、専門的な指導助言を行うもの。</li> <li>・継続的に育児の仕方等指導が必要な家庭については、養育支援員が引き続き訪問。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 386,000	R3予算額 500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問回数延べ180回。保健師・助産師訪問が118回、養育支援員訪問62回で、前年度より23件少ないが、コロナ禍で保健師・助産師訪問が一時中止になったための減少で、養育支援訪問は38件増加している。必要対象者には、継続して養育支援訪問に結びつけた。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産前産後支援ヘルパー派遣事業の利用者の増加に伴い、養育支援員の訪問に繋げやすくなっている。</li> <li>・支援対象者のアセスメントを行い、利用者の会議を定期的実施することにより、対象者への支援の充実を図ることができている。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養育支援員の訪問は、保護者の育児に寄り添い、適切な養育環境を構築する。無料の事業なので、利用しやすく、この事業後は一時保育や保育園入所に繋げたいが、潜在的待機児童により難しい。</li> </ul>		

G 子ども医療費助成事業 [国保医療課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世帯の負担軽減のため、北海道医療助成対象世帯の所得制限を撤廃するとともに、対象者を高校生（高校に進学しない場合は中学生）まで拡大し、入院及び通院にかかる自己負担額の全額を助成する。</li> <li>※北海道による助成範囲（給付範囲…就学前児童の入院及び通院・小学生の入院のみ、所得制限…児童手当準拠、自己負担額…一部負担あり（年齢および住民税課税・非課税世帯により違いあり）</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 164,505,446	R3予算額 163,843,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>受給者 5,960人（R3年3月末）に対し医療費を助成。 医療費の自己負担額分 159,784,409円、請求事務手数料分 4,721,037円</li> <li>医療費負担分内訳 道費対象：人数 3,712人 扶助費 47,866,023円 市費対象：人数 2,248人 扶助費 111,918,386円</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>受給者 5,755人（R3年度見込み）に対し医療費を助成。 医療費の自己負担額分 157,462,000円、請求事務手数料分 6,381,000円</li> <li>医療費負担分内訳 道費対象：人数 1,675人 扶助費 57,084,000円 市費対象：人数 4,080人 扶助費 100,378,000円</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世帯の負担軽減のため、R3年度と同内容により継続実施。</li> </ul>		

H ひとり親家庭等医療費助成事業 [国保医療課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親家庭等の負担軽減のため、北海道医療助成の対象世帯の所得制限を撤廃し、入院及び通院にかかる自己負担額の全額を助成する。</li> <li>※北海道による助成範囲（給付範囲…ひとり親家庭の父又は母及びその被扶養者（原則18歳の年度末までだが、申請により20歳到達の月末まで）、所得制限…児童扶養手当準拠、自己負担額…一部負担あり（年齢および住民税課税・非課税世帯により違いあり）</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 75,681,229	R3予算額 76,065,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>受給者 2,057人（R3年3月末）に対し医療費を助成。 医療費の自己負担額分 73,821,946円、請求事務手数料分 1,859,283円</li> <li>医療費負担分内訳 道費対象：人数 1,860人 扶助費 24,109,722円 市費対象：人数 197人 扶助費 49,712,224円</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>受給者 2,014人（R3年度見込み）に対し医療費を助成 医療費の自己負担額分 73,685,000円、請求事務手数料分 2,380,000円</li> <li>医療費負担分内訳 道費対象：人数 1,803人 扶助費 30,574,000円 市費対象：人数 211人 扶助費 43,111,000円</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親家庭等の負担軽減のため、R3年度と同内容により継続実施。</li> </ul>		

I 学校給食費の負担軽減の実施 [学校給食共同調理場]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校に在籍し、かつ市内在住の児童生徒のうち、同一世帯から2人以上就学している場合に第2子以降を軽減対象（第2子：半額、第3子以降：無料）とすることで、子育て支援の拡充を図る。</li> </ul> ※事業費は、軽減額を記載		
事業費 (円)	R2決算額 21,450,194	R3予算額 21,662,460	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽減対象者数（半額軽減：小学生701人、中学生77人 全額軽減：小学生120人、中学生2人）</li> <li>多子家庭への経済的負担の軽減により子育て支援が図られた。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽減対象者見込数（半額軽減：小学生678人、中学生73人 全額軽減：小学生114人、中学生2人）</li> <li>子育て支援のため継続実施が必要。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援のため継続実施が必要。</li> </ul>		

J 障害児紙おむつ給付事業 [保健福祉課]		継続	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>脳性まひ等で自ら排泄することができない児童は日常生活用具の給付対象となっているが、それ以外の疾病等で障がいがあり、紙おむつが必要な児童に対し、対象者（対象疾病）を拡大し、紙おむつを給付することにより障害児及び保護者の負担軽減と福祉の増進を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 220,950	R3予算額 432,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3名の利用実績あり（内9月から1名、10月から1名）</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害児の疾病に応じた給付として対応する必要があるため、今後も事業を継続。</li> <li>自己負担額が低い世帯の増加により、申請者が増えている。（R3年9月1日時点で7名）</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害児の疾病に応じた給付として対応する必要があるため、今後も事業を継続。</li> </ul>		

K 子ども家庭総合支援拠点 [子ども・子育て支援課]		R4新規	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置根拠：児童福祉法一部を改正する法律（H28年5月） 市区町村子ども家庭総合支援拠点設置運営要綱（H29年3月） 児童虐待防止対策体制総合強化プラン（H30年12月）→R4年度までに設置することが目標</li> <li>・子ども家庭総合支援拠点は、市内の18歳以下の子どもとその家庭及び妊産婦等を対象とし、必要な支援に係る業務を行い特に要支援児童及び要保護児童等に対して、切れ間ない支援を実施する。</li> <li>・H28年度から子ども子育て支援課に設置している子育て世代包括支援センター（妊産婦及び乳幼児その保護者を対象に支援する）と適切に情報共有しながら、子どもの発達段階や家庭の状況等に応じて切れ間ない支援を実施する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
		1,413,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭総合支援拠点のR4年開設に向けて、子ども家庭支援員（有資格者）をR3年10月より配置し、設置準備を行う。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<p>○地域の全ての子ども、家庭の相談に対する子ども支援の専門性をもった機関の体制（チーム）を整備し、地域の資源を有機的につないぐソーシャルワーク機能を充実させ、子育て世代包括支援センター（H28年度子ども子育て支援課に設置）と子ども家庭総合支援拠点との一体性の構築を図り、切れ目なく継続的な支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度に子ども子育て支援課に開設する。</li> <li>・専門性を有するための人的配置を予定（虐待専門員2名・子ども家庭支援員2名）</li> </ul> <p>※資格等：医師、社会福祉士、精神福祉士、保健師、助産師、看護師、保育士等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代包括支援センターとの役割を明確化し、連携することで支援を拡充することができるため、統括職を配置。母子保健分野と子ども家庭福祉分野の連携を強化し、切れ目ない支援を行うことのできる体制整備する。</li> <li>・支援拠点は、24時間の窓口機能を有するものではないが、子どもや家庭の日常を考慮した機能が求められる。虐待対応のみではなく、一時的な保護者の体調不良や第2子以上の出産等、各家族や祖父母の就労等により支援協力が難しい家庭が多い。それを補完する事業として、一時保育、出産時の保育、ファミリーサポートセンターの利用があるが、夜間預かりになると児童相談所の一時保護委託になることから、養育者側からはハードルが高く利用しづらいなどの課題への対応を検討。</li> </ul>		

③ 仕事と子育てを両立できる環境づくり

A 一時預かり事業（一般型）事業 [子ども子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的に保育が必要となった乳児・幼児を保育園で預かる事業で市内7保育園、2認定こども園で実施。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 14,400,000	R3予算額 20,856,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内7保育所、2認定こども園で延べ954名（R1年度延べ854名）</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内6保育所、2認定こども園で実施（当別保育園R2年度末で閉園）。</li> <li>・保護者の就労等により保育に欠ける部分を補う事業として継続実施。</li> <li>・R3年度予算額は、単価上昇のため増額。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等に入所できない世帯や育児疲れの世帯など、保育の確保として継続実施。</li> </ul>		

B 一時預かり事業（幼稚園型） [子ども子育て支援課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園する幼稚園児を、教育終了後引き続き幼稚園、認定こども園等で預かる事業で市内3幼稚園、市外5幼稚園、市外7認定こども園で実施。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 15,204,920	R3予算額 19,325,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内3幼稚園、市外5幼稚園、7認定こども園で実施。</li> <li>・延べ 平日24,199名 長期休業日4,648名 休日946名</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内3幼稚園、市外4幼稚園、7認定こども園で実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>・国による幼児教育・保育の無償化が始まり、幼稚園においても就労等を理由に預かり保育が無償となるため、保育の確保として継続実施。</li> </ul>		

施策(2)	子どもの力を引き出す教育環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもは、日本の将来を担う大切な存在であるという原点に立ち、子育て支援とともに子どもの持っている潜在的な能力を引き出し、さらに高める教育環境をつくる施策を展開する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により、R2年度は全国学力テストが中止となったが、全小中学校に一人一台のタブレット端末を整備し、ICT教育の実施環境など子どもの力を引き出す教育環境づくりは着実に進捗している。</li> </ul>
--

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の設問「自分には、よいところがある」に対し、「当てはまる」と回答した小学6年生、中学3年生の割合</li> </ul>	小学校39.7% 中学校31.3% (R1)	小学校25.0% 中学校32.7% (R2)	小学校60.0% 中学校60.0%
<ul style="list-style-type: none"> <li>市内中学生の実用英語技能検定受験率</li> </ul>	16% (R1)	18.2% (R2)	50%

① 子どもの学力や能力を引き出し、さらに高める特色ある学校づくり

A ICT教育実施の環境整備 [学校教育課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の全小中学生に一人一台のタブレット端末を整備することにより、児童生徒の学習意欲を高め、確かな学力の育成を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 429,564,669	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  <ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想により、全小中学校に高速通信の校内LAN環境を整備するとともに市内全小中学生に一人一台のタブレット端末を整備した。</li> <li>タブレット授業等の初期の取組として、社会教育施設や他校とリモートでつながり、校外遠隔授業の実施や他校との交流学習等を行った。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末の活用及び管理、情報モラル教育の定着、リモート授業の実践及び効果検証を行う。</li> <li>ICTを活用した授業計画の検証と改善を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員のICT教育に対するスキルアップを図るとともに、実践事例集の活用や授業教材の共有により、効率的なGIGAスクール構想の実現を推進。</li> </ul>		

B コミュニティスクール推進事業補助金[学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会が学校・家庭・地域の一体的な教育活動に対し、主体的・積極的に支援・協力することや児童生徒の健全育成と学校運営を推進。</li> <li>学校の機能（教育・施設）を活かし、地域コミュニティ機能を支援。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,104,000	R3予算額 1,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  <ul style="list-style-type: none"> <li>地域力を更に高めるため、学校の施設や学習活動などの機能を活かし、地域コミュニティを維持・向上することができた。</li> <li>石別小学校、谷川小学校、沖川小学校、上磯小学校、久根別小学校、浜分小学校、大野小学校、萩野小学校、島川小学校、大野中学校 計10校</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>谷川小学校、沖川小学校、上磯小学校、久根別小学校、大野小学校、市渡小学校、萩野小学校、島川小学校、大野中学校、石別小学校、浜分小学校、浜分中学校 計12校</li> <li>各学校が持つ教育的・施設的コミュニティ機能が、地域コミュニティを再構築する一助を担っている。(盆踊り、各種講座等)</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>地域に応じたコミュニティ事業の推進を図る。</li> </ul>		

② 急速に変化する社会へ対応するためのICT教育、英語教育などの推進や環境づくり

A プログラミング教材整備事業 [学校教育課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度より小学校でプログラミング教育が実施されることから、人型ロボットを活用し、実際にコンピュータにプログラムを意図した処理を体験させることで、プログラミング的思考の育成を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 726,000	R3予算額 792,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年5月、3台の人型ロボット「ペッパー」をリースにより導入した。</li> <li>・市内の全小学校へ巡回（ローテーション）により配置し、プログラミング教育に活用した。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング的思考の向上を図るため継続実施。</li> <li>・教科とプログラミング教育のねらいとの融合に向けた実践と検証が課題。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング的思考の向上を図るため継続実施。</li> </ul>		

B 英語検定料補助事業 [学校教育課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北斗市の英語能力（英検3級程度）が全道を下回っており、英語能力の向上を図るために小学校高学年から英語検定に興味をもたせ中学3年生までに英検3級の取得率30%を目指す。</li> <li>対象：北斗市在住で市内の小中学校に在籍している小学5年生から中学3年生</li> <li>対象検定級：小学生は5級、4級 中学生は3級</li> <li>補助額：検定料の1/2 補助回数は年1回</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 190,550	R3予算額 639,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標：英検受験率 小学校5・6年生 10% (76人/760人) 中学生20% (261人/1,305人)</li> <li>実績：英検受験率 小学校5・6年生 3.8% (29人/760人) 中学生 14.5% (190人/1,305人)</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助対象枠の拡充の検討。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育の充実と英語検定受験率の向上を図るため継続実施。</li> </ul>		

C 教育活動推進教員配置 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色のある教育活動を推進するため、専門性のある補助教員を配置。</li> <li>・英語教育に重点を置く茂辺地小中学校に併置校の特色を活かすために補助教員を配置。</li> <li>・英語教育の推進及び小学校の英語活動のプログラムの考案。</li> <li>・イングリッシュキャンプ事業への参画。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 3,408,845	R3予算額 3,380,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育に重点を置く学校に補助教員を配置したことにより、児童生徒の英会話能力が向上した。</li> <li>・茂辺地中学校生徒の積極的な英語検定への挑戦。</li> <li>・配置校 茂辺地小中学校</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語会話活動の充実を図る。</li> <li>・小学生用の英語活動プログラム、教材等の開発。</li> <li>・配置校 茂辺地小中学校</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育力の充実を図るため、先進地での事業効果を検証し、他校での実施を検討。</li> </ul>		

③ 子ども一人ひとりに応じた支援や学習をする機会の提供

A 特認校制度の実施 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然、歴史、文化その他の恵まれた環境を生かして、児童生徒の心身の健やかな成長を目指し、豊かな人間性を育むための教育活動を展開する小規模な小学校及び中学校に通学区域外の児童生徒が一定の条件のもとに通学を認める制度。</li> <li>・特認校：石別小学校、茂辺地小学校、沖川小学校、島川小学校、石別中学校、茂辺地中学校</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石別小学校2人、茂辺地小学校1人、沖川小学校1人、島川小学校9人、石別中学校10人、茂辺地中学校8人 計31人</li> <li>・特認校に通う児童生徒が、それぞれの学校で自然、歴史、文化その他の恵まれた環境の中で多様な学習をすることができた。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石別小学校5人、茂辺地小学校1人、沖川小学校2人、島川小学校10人、石別中学校7人、茂辺地中学校8人 計33人</li> <li>・個に応じたそれぞれの学校で自然、歴史、文化その他の恵まれた環境の中での多様な学習を保障。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰一人取り残さない」教育を推進するため事業の継続の実施。</li> </ul>		

B 特認校通学補助事業 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特認校制度により通学する児童生徒に対し、通学費の保護者負担の軽減を図るため、通学費補助金を交付。</li> <li>・補助金額：公共交通機関利用：定期金額の9割 自家用車利用：4km以上2,000円、10km以上4,000円</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	1,113,119	1,001,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石別小学校2人、茂辺地小学校1人、沖川小学校1人、島川小学校3人、石別中学校9人、茂辺地中学校6人 計22人</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石別小学校5人、茂辺地小学校1人、沖川小学校1人、島川小学校4人、石別中学校6人、茂辺地中学校4人 計21人</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特認校制度は、「誰一人取り残さない」教育の施策の1つであり、今後も特認校に通学する児童生徒に対し、通学費補助を実施。</li> </ul>		

C 少人数授業への補助教員配置 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3学年以上、中学校2学年以上で1学級が36人以上となる場合、その学年に対し、1名補助教員を配置。</li> <li>・補助教員が、各学級で担当する教科は、小学校では主に算数、中学校では数学・英語であるが、授業内容によっては他教科でも補助。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 26,447,043	R3予算額 29,178,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助教員を配置することにより、児童生徒の一人ひとりにきめ細かな指導を行うことができた。</li> <li>・上磯小学校1人、久根別小学校2人、浜分小学校3人、上磯中学校2人、浜分中学校1人 計9人</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助教員を配置することにより、児童生徒の一人ひとりにきめ細かな指導を図る。</li> <li>・上磯小学校2人、久根別小学校1人、浜分小学校2人、上磯中学校1人、浜分中学校2人 計8人</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助教員の確保が困難となっているため、採用者の処遇、公募方法などを検討。</li> </ul>		

D 複式学校補助教員配置 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級では、1人の教員が複数の学年の児童生徒を同時に指導することになることから、学年に応じた教科学習が受けられるよう補助教諭を配置する。</li> <li>・複式学級を要する学校に対し、原則、小学校2校で1人、中学校1校で1人の補助教員を配置。</li> <li>・対象となる学校(R1・2年度)：石別小学校、茂辺地小学校、沖川小学校、島川小学校</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 6,674,034	R3予算額 9,724,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級に補助教員を配置することにより、学年に応じた教育を受けることができた。</li> <li>・配置校 石別小学校+茂辺地小学校で1名、沖川小学校+島川小学校で1名 計2名</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級に補助教員を配置することにより、学年に応じた教育を保障。</li> <li>・配置校 石別小学校+茂辺地小学校で1名、沖川小学校+島川小学校+市渡小学校で1名 計2名</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた授業を実施するため、事業を継続実施。</li> </ul>		

E 学習支援員配置 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的支援が必要な児童生徒に対して、学校における日常生活や学習をサポートする学習支援員を配置し、教育の充実を図る。</li> <li>・配置基準：特別支援学級で2学級以内(加配なし)で、1学級5～8人(定数8)および介助が必要な児童生徒がいた場合や、通常学級に所属し、学校生活のなかで、支援が必要とされる場合。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 31,674,334	R3予算額 36,468,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態に応じた支援をすることで、安心した学校生活を送ることができた。</li> <li>・市内小学校9校に25名、中学校4校に5名 計30名配置。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態に応じた支援をすることで、安心した学校生活を送ることを保障する。</li> <li>・市内小学校9校に26名、中学校4校に4名 計30名配置。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰一人取り残さない」教育をより推進するため、支援員を増員し、児童生徒の実態に応じた細やかな学習支援を行う。</li> </ul>		

F 青少年関連社会教育事業 [社会教育課][総務課][市民課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年事業を通じ、子どもたちの自主性を育み、自らの力を発揮できるよう多様な学習体験の機会を提供する。</li> <li>【事業】子どもチャレンジ講座（前期・後期）、イングリッシュキャンプ（2会場）、きっずアドベンチャー、ほくほく講座、学習体験広場、ほくと学ジュニア検定、図書ボランティアジュニアサポーター、1日図書館司書</li> <li>・子どもたちが、まちづくりについて考え、意見を発表する体験を通して行政や議会への理解を深めるとともに、子どもたちの視点による意見を市政運営の参考とすることを目的に、北斗市子ども議会を開催する。</li> <li>・子どもたちが自分の主張を正しく伝える力を身につけるとともに、未来に向けての夢、社会に対する希望などを発信してもらうことにより、青少年の健全育成及び非行防止に対する市民の理解を深める契機となることを目的に青少年育成大会を開催する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 877,816	R3予算額 1,239,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもチャレンジ講座（後期21講座、参加者延べ145名）、ほくほく講座（2講座、参加者延べ538名）、ほくと学ジュニア検定（受検者数431名）</li> <li>＜新型コロナウイルスの影響＞</li> <li>子どもチャレンジ講座（前期講座開設中止）、きっずアドベンチャー（開催中止）、イングリッシュキャンプ（開催中止）</li> <li>・子ども議会：R2年11月24日(火)開催、市内小学校5・6年生、中学生及び市内高等学校・高等支援学校の生徒合計20名の子ども議員で構成され、10名が市政に関する質問を行った。</li> <li>・青少年育成大会：R2年10月10日(土)にかなで～大ホールにて開催、市内小中学校の生徒10名が「夢を語ろう わたしたちが創る未来の北斗～新たな時代に向かって～」をテーマに率直で熱い「青少年の主張」を発表した。一般客約190名、児童・生徒約430名、関係者・発表者約30名 合計約650名</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育団体やまちの匠らの協力のもと学習体験等の機会を多く提供しているものの、参加者が減少傾向にあることから、事業の周知方法や講座内容により一層の工夫をする必要がある。</li> <li>＜新型コロナウイルスの影響＞</li> <li>きっずアドベンチャー（開催中止）、イングリッシュキャンプ（茂辺地会場中止、1会場に縮小）</li> <li>・子ども議会：R3年11月15日(月)に例年と同様の内容で実施予定。</li> <li>・青少年育成大会：R3年10月9日(土)にかなで～大ホールにて開催。「拝啓未来の北斗市へ～変わりゆく世界を見つめて～」 「今のわたしが未来を創る～無限の可能性を信じて～」をテーマに「青少年の主張」を実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の継続実施</li> <li>・青少年育成大会については北斗市青少年問題協議会にて実施内容を協議を行うが、R4年度についてはR3年度のテーマを継続予定。</li> </ul>		

④ 子どもの活躍を支援する制度の推進や環境づくり

A 対外競技参加等補助事業 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学生の対外競技等の経費について、補助することにより保護者負担の軽減を図る。</li> <li>・子どもたちの能力を発揮する機会を保障し、スポーツや文化の教育環境を高める。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 542,920	R3予算額 23,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全道・全国大会に出場したことにより、ほかの地域の児童生徒や文化との交流が図られた。</li> <li>・小学校 全道大会 1 団体</li> <li>・中学校 全道大会 3 団体</li> </ul> ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大会が中止。		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全道・全国大会に参加することにより、子どもたちの能力を発揮する機会を保障するとともに、ほかの地域の児童生徒との交流を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者負担の軽減が図られ、全道・全国大会に参加したことにより、子どもたちの能力を発揮できる機会が保障されていることから、引き続き経費の一部を補助する。</li> </ul>		

B 子ども対外競技等参加補助事業 [社会教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校の社会教育活動として行われる対外競技等の全国又は全道大会に参加する経費の一部を補助し、保護者負担の軽減を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,376,000	R3予算額 4,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全道・全国大会への参加により、他地域の参加者との交流及び技術の向上が図られた。</li> <li>・小学校：全道大会 6 団体 児童 8 名 指導者 6 名、全国大会 1 団体 児童 1 名 指導者 1 名</li> <li>・中学校：全道大会 2 団体 生徒 16 名 指導者 2 名、全国大会 3 団体 生徒 11 名 指導者 3 名</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者負担の軽減が図られ、全道、全国大会に参加することにより、児童・生徒の競技レベルの向上もみられることから、引き続き、経費の一部補助を行う。</li> </ul> 小学校：4 団体 児童 21 名 指導者 4 人 中学校：1 団体 生徒 1 名 指導者 1 名		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業の継続実施。</li> </ul>		

C まちの匠事業 [社会教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道南圏域に在住する方で、特質すべき技能をもった方を登録し、社会教育事業等の講師を依頼するほか、各種団体の研修会や講演会等の講師として紹介できるような人材バンク登録事業。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の登録者 69名（前年比4名増）</li> <li>・少しずつではあるが、プログラミングや健康増進関連など多様な人材の登録が増えた。</li> <li>※活動実績例 高齢者大学講師、子どもチャレンジ講座講師</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちに潜在している多種多様な能力のある人材を有効に活用できるよう、幅広い分野での登録者の増加を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、多種多様な人材の登録者を募り、社会教育事業だけでなく、市として取組む事業全般にも活かすことができるような体制づくりへ発展させる。</li> </ul>		

施策(3)	就学（修学）支援の推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが誰一人取り残されず、持続可能な社会の創り手となることができるように、就学（修学）に係る経済的負担などの軽減を図る施策を展開する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校における不登校児童数の割合は増加しており、継続して子どもたちが誰一人取り残されることのないよう、就学（修学）を支援する個々の事業の展開が必要。</li> </ul>
--

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・不登校児童生徒数の割合	小学校 0.28% 中学校 6.4% (H30)	小学校 0.94% 中学校 4.52% (R2)	小学校 0.14% 中学校 3.2% (現状値より半減)

① 教育に関する多様な支援

A スクールソーシャルワーカー等活用事業 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、不登校、児童虐待などの生徒児童の問題を早期発見できるような学校での相談体制を構築し、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門スタッフや関係機関と連携した相談活動や包括的支援を推進する。</li> <li>スクールソーシャルワーカー：公民館に1名配置</li> <li>スクールカウンセラー（北海道教育委員会派遣）：全小中学校を4名で巡回</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,405,120	R3予算額 1,519,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカー 学校や適応指導教室への訪問活動により、問題の改善や関係機関との連携が図られた。</li> <li>スクールカウンセラー 巡回による相談指導。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒児童をはじめ教育をめぐる様々な問題の早期解決を図るため継続実施。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒児童をはじめ教育をめぐる様々な問題の早期解決を図るため継続実施。</li> </ul>			

B 奨学金事業 [学校教育課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的理由により就学が困難な方に対して、奨学金を貸付（無利子）する。</li> <li>卒業後（又は制度施行後）北斗市に居住し就職した場合には償還を免除する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 11,611,750	R3予算額 14,832,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新規：5人 継続：15人 貸付人数 20人</li> <li>奨学金制度の拡充に向けた条例改正（R3年度より実施）</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業により経済的に困難な方々の就学を支援し、有用な人材育成に努めてきたが、今後は奨学金の支援内容を拡充し、有用な人材が地元に着定できる環境づくりを行う。</li> </ul> <p>【拡充内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学一時金の貸付</li> <li>奨学金申請時の所得基準額の緩和</li> <li>成績優秀者に対する入学一時金の償還免除</li> <li>卒業後（又は制度施行後）北斗市に居住し就職した場合の償還免除</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、本事業により経済的に困難な方々の就学を支援し、有用な人材育成に努め、その人材が地元に着定できる環境づくりを継続。</li> </ul>			

② 地域総がかりの教育活動の推進

A コミュニティスクール推進事業補助金[学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会が学校・家庭・地域の一体的な教育活動に対し、主体的・積極的に支援・協力することや児童生徒の健全育成と学校運営を推進。</li> <li>・学校の機能（教育・施設）を活かし、地域コミュニティ機能を支援。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,104,000	R3予算額 1,500,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域力を更に高めるため、学校の施設や学習活動などの機能を活かし、地域コミュニティを維持・向上することができた。</li> <li>・石別小学校、谷川小学校、沖川小学校、上磯小学校、久根別小学校、浜分小学校、大野小学校、萩野小学校、島川小学校、大野中学校 計10校</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川小学校、沖川小学校、上磯小学校、久根別小学校、大野小学校、市渡小学校、萩野小学校、島川小学校、大野中学校、石別小学校、浜分小学校、浜分中学校 計12校</li> <li>・各学校が持つ教育的・施設のコミュニティ機能が、地域コミュニティを再構築する一助を担っている。(盆踊り、各種講座等)</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に応じたコミュニティ事業の推進を図る。</li> </ul>		

B キャリア教育推進事業 [学校教育課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が社会科副読本で地場産業に興味関心を高める。</li> <li>・生徒が企業等で職場体験学習を通じて、社会的、職業的自立に必要な基盤となる能力や自分らしい生き方を実現するための力を育む。</li> <li>・キャリア教育の推進等を通じ、地元就職し地域を担う人材の育成を図る。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業等の職場見学（小学生）。</li> <li>・地元企業等における職場体験学習（中学生）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業等の職場見学（小学生）。</li> <li>・地元企業等における職場体験学習（中学生）。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元就職し地域を担う人材の育成を図るため、継続実施。</li> </ul>		

施策(4)	結婚を望む方への支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>国や道、民間団体が実施する結婚に関する取組との連携を図るとともに、各種イベントの開催を通じた出会いの場の創出に取組む。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により各事業が実施できない状況が続いており、KPIについては進捗していない。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の収束期を見据え、各事業の実施に向けた具体的検討を進めることが必要。</li> </ul>
---

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・ 出会いの場創出イベント参加者数	—	0人 (R2)	100人
・ 結婚率	3.6% (H30)	3.2% (R2)	北海道水準 (H29 4.5%)

① 出会いの場の創出

A 生涯学習講座事業 [社会教育課]		R4新規	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習講座として、気軽に参加できる男女の出会いの場づくりを推進することを目的に多様な講座を開設する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>婚活事業等へ発展できるきっかけとなる取組を生涯学習事業のなかで検討し、スポーツを通して男女の出会いの場を創出する事業（仮）北斗deスポ婚を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施を見送った。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で積極的な事業展開ができない状況が続いているが、生涯学習事業のなかで婚活等のきっかけとなる取組を検討。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、<u>生涯学習事業のなかで婚活等のきっかけとなる取組</u>を検討し、<u>試行事業</u>を行う。</li> </ul>			

② 市民に対する情報提供、参加促進

A 民間による婚活事業へのサポート [企画課]		継続	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>婚活や出会いサポートを目的とするNPOなどの動向や情報を把握するとともに、必要に応じて側面支援や連携協定の締結を検討。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、<u>函館市内のNPOが活動休止状態</u>となっており、連携協定締結に向けた検討はできていない。</li> <li>結婚相談や婚活イベントを実施する国、道、民間団体についても新型コロナウイルス感染症の影響により殆ど活動ができていない状況。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>函館市内のNPOの活動再開状況を踏まえ、連携協定締結に向けた検討する予定だが<u>活動再開の目途はたっていない状況</u>。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>NPOなどの情報収集を継続し、民間による婚活事業へのサポートのため、連携協定等について検討。</li> </ul>			

基本目標4	<b>住み続けたいという暮らしの環境をつくり守る</b> ～ ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる ～
-------	---

数値目標：年度末の住民基本台帳に登録された人口

※人口ビジョンでは、基本目標2、3で示した数値目標を達成し、R6年度末人口を44,200人としている。



施策(1)	地域コミュニティの充実と市民協働
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のコミュニティ活動を担う多様な主体への市民一人ひとりの参加を促し、地域力を高めることにより、地域団体や市民活動団体、事業者等の市民と行政が互いの責任と役割を担う市民協働のまちづくりにつながる施策を展開する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、町内会等の地域コミュニティ活動が困難な状況が続いており、町内会加入率は進捗していないが、アフターコロナを見据え、活動再開に向けた支援が必要。</li> <li>地域応援元気づくり補助金の制度活用により、市民が主体となった地域力の強化を図る事業の促進が必要。</li> </ul>	
---	--

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	現状値	目標 (R6末)
・町内会加入率	64.4% (H30)	63.4% (R2)	66.0%

① 地域コミュニティ活動への多様な主体の参加

A 市民の社会参加の促進による地域コミュニティの強化[市民課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ意識の向上、地域活動の活性化を目的とした講演会やセミナーの開催。</li> <li>町内会活動や地域活動の必要性や正しい理解を深めるための啓蒙活動の実施。</li> <li>地域個人だけではなく、区域内の民間事業者や多様な団体への地域活動への参加と協力の呼びかけ。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	-	-	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、外部との交流はもちろん、町会連合会をはじめコミュニティの基盤となる単位町内会での活動を自粛している組織も多く、地域コミュニティ機能の維持が困難な状況であったことから、コロナ禍においても活動を停滞させないための働きかけとして、感染予防対策を踏まえた活動指針の情報提供やアンケート調査を実施した。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供した感染予防対策を踏まえた活動指針を基に、町会連合会がコロナ禍での感染予防対策に工夫を凝らした事業を実践することで、各单位町内会の活動意欲を低迷させることなく、地域コミュニティ機能の維持を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の収束をまちつつ、様々な予防対策を講じたうえで下記の事業に取組む</li> <li>複合化、多様化する地域づくり活動に対応するため、町会連合会や他のコミュニティ団体と協調し地域活動の必要性や理解を深めるためコミュニティ活動の目的別の講演会やセミナーを開催する。開催にあたっては市内の民間事業者や他団体など多様な主体に対しても参加を呼びかけ、地域活動への協力や理解を深める。</li> <li>講演会やセミナーの内容、町会連合会及び単位町内会での取組をソーシャルメディア等を活用した情報発信により若年層の参加促進に向けたアプローチを図る。</li> </ul>		

② 地域力の強化

A 地域応援元気づくり補助金 [企画課]		R3新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なまちづくりの担い手がそれぞれの役割と責務を果たし、市民と行政のパートナーシップを構築することがさらに重要になるとの認識のもと、それぞれの地域において、その特性を活かした地域住民による主体的な活動や、地域課題の解決に向けた取組に対する支援制度を創設する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	1,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度の予算計上に向けた庁内協議及び補助制度の設計を行った。</li> <li>補助対象：第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本方針（SDGsの理念）及び4つの基本目標の達成に資する地域の取組。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助要綱を制定し、ホームページ及び広報ほくによる周知。</li> <li>事業採択にあたっての審査基準や運用ルールの検討。</li> <li>9月10日までの申請受付分として、次の2件の事業を採択した。</li> <li>○新函館北斗駅周辺で行うハロウィンイベント</li> <li>○子どもたちが地域を学ぶ体験学習事業</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助制度の目的や事業実績について市ホームページや広報ほくによる周知を行い、地域応援元気づくり補助金の活用を促進。</li> </ul>		

B 市職員の地域活動への参加の促進 [市民課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの管理職のほか、全市職員へ町内会担当地区を割当てし、地域活動への参加を促す。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの管理職のほか、全市職員を町内会ごとに割当て、担当地区を決めた。</li> <li>町会連合会と連携し、職員へ担当地区の情報提供するため各单位町内会で行われている事業を把握した。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全市職員の町内会担当地区の割当名簿を作成し各職員へ通知する。</li> <li>町会連合会と連携し、各单位町内会の実施事業内容を把握し担当職員へ情報提供する。</li> <li>町会連合会と連携し、町会区域内に属する他団体（企業やボランティア団体等）の情報を聞き取り、他団体との連携及び協力体制の構築と推進を図る。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍を脱した後、以前と変わらずにコミュニティの基盤である町内会活動が行えるよう、町会連合会と連携しながら各町会の現状を担当職員へ情報提供するなどして、職員の積極的な参加を促す。</li> <li>担当職員から地域の情報を収集し、町会連合会を通じて他の地域へ情報提供や問題提起をする。</li> <li>他団体との連携及び協力体制の構築と推進を図る。</li> </ul>		

C 町内会活動活性化交付金事業 [市民課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動活性化交付金事業は、明るく住みよい地域社会の実現及び住民福祉の増進を図るため、町内会の維持及び自主的な活動を促進することを目的として実施。</li> <li>・均等割交付金3万円＋活動交付金1万円×7項目（R3より1項目追加）</li> <li>①地域住民の交流を深める事業 ②健康づくり事業 ③自主防災事業 ④防犯・交通安全事業 ⑤町内会広報誌の発行 ⑥環境美化事業 ⑦加入促進・担い手育成事業</li> <li>※ 複数項目を実施する町内会を増やすよう、町会連合会とも協力し実施。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 6,880,000	R3予算額 8,600,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6事業：48町会、5事業：11町会、4事業：13町会、3事業：9町会、2事業：3町会、1事業：2町会</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の状況から、当初の事業計画どおり町内会活動が実施されていなかったが、各単位町内会で、できる範囲での関連事業を試行錯誤しながら実施してきた。このことを踏まえ、少しでも円滑にそれぞれの事業が展開できるように、町内会での感染予防対策の実施に要する経費を定額交付（町内会活動感染症予防対策支援交付金 8,600千円）した。</li> <li>・コロナ禍により町内会活動が停滞する中、加入率の低下、担い手不足が浮き彫りとなってきたため支援策を構築することが急務である。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入促進・担い手育成に関する事業に対する支援策として活性化交付金の事業項目の追加をした。</li> <li>・86町会申請：7,590,000円</li> <li>・7事業：47町会 6事業：15町会、5事業：8町会、4事業：6町会、3事業：4町会、2事業：5町会、1事業：1町会、均等割交付金のみ：1町会</li> <li>（R3追加 加入促進・担い手育成事業：67町会申請）</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町内会・自治会から、町内会活動の上で有用な事業であるとの声もあり、引き続き事業を継続。</li> </ul>		

D 地域協働対策補助金事業 [市民課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会が実施する地域協働事業に係る経費の一部を補助することにより町内会活動の活性化や住民自治意識の高揚を目的として、実施。</li> <li>・環境整備事業：1町内会当たり100万円上限</li> <li>・その他事業：1町内会当たり10万円上限</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 100,000	R3予算額 2,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備事業：なし、その他事業：100千円（1町内会）（内訳）物置</li> <li>・「新しい生活様式」を取り入れ、連合会へ様々な情報提供をしながら町内会活動の活性化や住民自治意識の高揚を目的に継続実施。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備事業：1,000千円、その他事業：1,000千円（10町内会想定）</li> <li>・R3.8月末現在：その他事業 6町会申請済</li> <li>（資材保管庫、液晶テレビ、ゴミステーション、ふまねっと・ポッチャ、パソコン・デジカメ、耕運機）</li> <li>・「新しい生活様式」を取り入れ、連合会へ様々な情報提供をしながら町内会活動の活性化や住民自治意識の高揚を目的として継続実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備事業：1,000千円、その他事業：1,000千円（10町内会想定）</li> <li>・「新しい生活様式」を取り入れ、連合会へ様々な情報提供をしながら町内会活動の活性化や住民自治意識の高揚を目的に継続実施。</li> </ul>		

E 町内会館建築費補助事業[市民課]		拡充	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会の健全なる発展と地域住民の福祉を増進し、併せて市行政の推進を図るため、町内会館の建築に要する経費の3分の2を補助。</li> <li>補助要件は、新築又は10万円以上の増改築。補助対象経費上限額2,000万円。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,560,142	R3予算額 163,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>5町会申請               <ul style="list-style-type: none"> <li>①常盤町会館改修事業:765,189円 ②添山会館改修事業:505,333円</li> <li>③大工川自治会館改修事業:74,020円 ④喜連会館改修事業:83,600円 ⑤長橋会館:132,000円</li> </ul> </li> <li>引き続き、地域コミュニティの活動拠点である町内会館の改修等に対し補助を実施するとともに老朽化する各町内会館の解体費用補助についての検討も必要。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1町会申請               <ul style="list-style-type: none"> <li>①東部東浜町内会館改修事業:162,666円</li> </ul> </li> <li>老朽化する各町内会館の維持が困難となってきたため解体等余儀なくされた場合に備え、<u>解体費用補助を含めた制度の見直し</u>をする。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域コミュニティの活動拠点である町内会館の改修等に対し補助を実施するとともに、老朽化する各町内会館の維持が困難となってきたため、解体等余儀なくされた場合に備え、<u>解体等の費用補助を含めた制度改正</u>をする。</li> </ul>		

F 町内会館等運営費補助金事業[市民課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るく住みよい地域社会の実現及び住民福祉の増進を図るため、地域コミュニティ活動拠点施設として有効活用することを目的に町内会等が設置する又は管理する町内会館等の管理運営にかかる経費の一部を補助。 ①電気料基本料金の全額、②上・下水道料基本料金の全額、③し尿汲取料の3分の2の額、④消防設備点検費用の3分の2の額（H29年度より）、⑤土地借上料について一定の基準により補助する（5会館）</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,680,329	R3予算額 1,838,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>42町内会館：1,680,329円               <ul style="list-style-type: none"> <li>①電気料:638,352円 42町会 ②上下水道料:659,520円 40町会 ③し尿処理:4,342円 2町会</li> <li>④消防設備点検:7,333円 1町会 ⑤借地料:370,782円 5町会</li> </ul> </li> <li>引き続き、地域コミュニティの活動拠点である町内会館の管理運営経費に対し補助を実施。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>43町内会館申請：1会館追加（中野通中部自治会 市當中野通団地集会室）                &lt;&lt;R3.8月末現在&gt;&gt;1,644,773円               <ul style="list-style-type: none"> <li>①電気料:650,628円 43町会 ②上下水道料:680,040円 41町会 ③借地料:314,105円 5町会</li> </ul> </li> <li>引き続き、地域コミュニティの活動拠点である町内会館の管理運営経費に対し補助を実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域コミュニティの活動拠点である町内会館の管理運営経費に対し補助を実施。</li> </ul>		

G 町内会加入促進に向けた取組[市民課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各町内会に対し、自発的な取組活動を促し、町内会加入促進のため、町内会・自治会と連携し取り組む。</li> </ul>		
事業費(円)	R2決算額	R3予算額	
	-	-	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<p>※継続的に施策を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町会連合会の活動の一つとして、町内会加入促進を位置づけており、加入促進の先取組連合会である千歳市町内会連合会への視察研修を予定していたがコロナ禍により中止。</li> <li>加入促進への意識の醸成を図りつつ、町内会活動活性化交付金の補助対象項目の見直し等新たな方策を検討。</li> <li>各町内会ごとの事業内容を把握し、町会ごとのチラシもしくはパンフレットを随時更新。</li> <li>転入手続きの際加入を促す情報提供。</li> <li>協定を結んでいる宅建協会、不動産協会への声掛けの強化とともに地域独自のチラシ配布を依頼した。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<p>※継続的に施策を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加入促進・担い手育成に関する事業に対しての支援として町内会活性化交付金の事業項目を追加（66町会申請）</li> <li>R2年度実施予定であった千歳市町内会連合会への視察研修は昨年同様コロナ禍により中止。</li> <li>各町内会ごとの事業内容を都度把握し、町会ごとのチラシもしくはパンフレットを随時更新。</li> <li>転入手続きの際加入を促す情報提供。</li> <li>協定を結んでいる宅建協会並びに不動産協会との連携を密にし区域独自のチラシ配布等を依頼しそれぞれへの声掛けを強化する。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<p>※継続的に施策を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度実施予定であった千歳市町内会連合会へ視察研修を実施予定。</li> <li>各町内会ごとの事業内容を都度把握し、町会ごとのチラシもしくはパンフレットを随時更新。</li> <li>転入手続きの際加入を促す情報提供。</li> <li>協定を結んでいる宅建協会並びに不動産協会との連携を密にし区域独自のチラシ配布等を依頼しそれぞれへの声掛けを強化する。</li> </ul>			

H 自助・共助、地域コミュニティとの連携強化 [総務課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における防災訓練や防災研修会の実施により、自助・共助の考え方・取組を広めるとともに、地域コミュニティとの連携強化に努める。</li> <li>自主防災組織の設立、育成や防災士の養成を進めるとともに、防災連絡会議との連携をとおり、地域における防災力の強化に努める。</li> </ul>		
事業費(円)	R2決算額	R3予算額	
	0	1,255,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>防災士については3名分の予算を確保するも、養成研修講座の開催が見送りとなったため、資格取得者はなかった。</li> <li>防災訓練実績…0回、防災研修会実績…3回</li> <li>授業での防災ハンドブックの活用や防災訓練・防災研修の実施など、学校での自主的な防災活動が行われた。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、「防災ハンドブック」を活用した防災訓練・防災研修会の開催に努める。</li> <li>防災連絡会議と連携し、コロナ収束後を見据えた防災対策、要支援者対策などについて検討を行うとともに、自主防災組織の設立に向けた取組を行う。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道が作成する日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴う津波浸水想定を踏まえ、「津波ハザードマップ」を作成し、全戸配布する。</li> <li>引き続き防災連絡会議と連携のもと、地域における防災訓練の充実に努める。</li> </ul>			

施策(2)	市民総活躍社会の構築
<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの理念に基づく誰一人取り残さない、市民総活躍の地域共生社会を実現する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>手話教室等の開催ができず、KPIは進捗していないが、定例記者会見などの場面で手話通訳者による情報提供に努めた。</li> <li>町内会や学校でも手話の普及に関する取組みが行われ、北斗ろう協会と連携した活動が必要。</li> </ul>
---

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	現状値	目標(R6年度末)
・市主催の手話教室参加者数	—	10人 (R2)	300人 (20人/回 ×年3回×5年)

① 誰もが能力に応じて最大限活躍できる社会の実現

A 障がい者の就労支援 [保健福祉課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害福祉サービスの就労支援系事業の利用者や、医療保健機関のデイケアで就労を目指す障がい者が、一般就労に移行しやすくさせるよう就労支援を担う人材の育成体制の充実を検討。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	0	0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年度は第6期障がい者福祉計画策定委員会の中で、障害やひきこもり等も含めた「社会生活のしづらさ」を抱えた人が、「働くことを踏まえた社会参加」を推進させる為、当事者団体に実情を伺い、方向性を議論する。</li> <li>主な議論する内容：①在宅就労（パソコンでの作業やICTの活用等）②農福連携（農業を通じた農作業や6次化に向けた推進）③職業準備支援（職場に適応する社会生活の為の支援）④職場適応助言者の活用（障害のある労働者を支援するジョブコーチ）</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>第6期障がい者福祉計画策定委員会での方向性を踏まえ、実現させるよう、障害のある人たちを福祉的就労から一般就労させる方向性について、<b>専門部会を設置して就労支援の強化及び連携を図った。</b></li> <li>主に、障害の特性（精神障害・知的障害・身体障害・発達障害・ろうあ・難病）に応じた具体的な雇用支援を検討した。</li> <li>専門部会の出席メンバー：当事者団体・ハローワーク、道南障害者就労生活支援センター、高等支援学校、養護学校、障害者福祉事業所、行政）</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>障害のある人たちを福祉的就労から一般就労させる方向性について情報共有の必要があるため、今後も連携継続。</li> </ul>			

② 地域共生社会の実現

A 地域共生社会の実現に向けて [保健福祉課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で高齢者も障がいのある人も、若い人も、子どもも、誰もが気軽にやってきて、話をしたりお茶を飲んだりしながら、<u>集まれて</u>地域で困っている事案を一人一人が何ができるかを考える場の開設を推進する。</li> <li>・高齢者が増加する中、夏場の草刈りや冬場の在宅高齢者向け除雪サービス等を担うボランティアの拡充が求められている。ボランティアの充実に向け養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化を有効活用し、地域で助け合う体制整備について検討する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度は第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会と第6期障がい者福祉計画策定委員会の中で、高齢者の介護予防や生きがいづくりの場、障がい者の働く場、高齢者や障がい者・子ども・地域の皆さんの交流の場等、場づくりの役割を考える。</li> <li>高齢者の生きがいづくりの場：地域カフェ、ふまねっと、健康体操、茶話会のサロン等</li> <li>障がい者の働く場：地域カフェ、作業所、農業や漁業、一般就労等</li> <li>地域交流の場：子ども食堂、地域食堂、地域カフェ等</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、地域住民を含めたワークショップの開催が中止された。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定委員会で議論されたことを踏まえ、サロンの開設や夏場の草刈りや冬場の在宅高齢者向け除雪サービス等のボランティアの拡充を考える等、小学校区単位でのワークショップを開催して地域の困りごとを整理し、解決する為の方向性を定め、地域共生社会の実現方法を検討。</li> </ul>			

B 手話に対する市民理解 [保健福祉課]		R2新規	戦略事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話等の理解と普及は、聴覚の機能の障がいの有無にかかわらず、市民相互に必要である。手話等を利用する障がい者がその障がいの特性に応じたコミュニケーション手段を選択し利用することによって意思疎通を円滑に図る権利が保障される。</li> <li>・北斗市出身でモデルや手話パフォーマンスで活躍するNyankoさんがR1年に上磯中学校の吹奏楽部の生徒に手話指導を行った経緯から今後も継続的に北斗市に呼び、手話の講演等を予定している。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nyankoさんの手話パフォーマンス等の講演会は新型コロナウイルス感染症の防止から中止した（東京都内在住者のため）。</li> <li>・R2年度は、市民対象手話学習会を新型コロナウイルス感染症の防止から中止した。</li> <li>・北斗市ろう協会と協議し、実施計画を作成した。</li> </ul>			
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nyankoさんの手話パフォーマンス等の講演会は新型コロナウイルス感染症の防止から中止した。（東京都内在住者のため）</li> <li>・R3年度は、市民対象手話学習会を新型コロナウイルス感染症の防止から中止した。</li> <li>・市長記者会見等では、ろうあ者への情報発信ができるよう手話通訳者の活動を拡大した。</li> </ul>			
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nyankoさんの手話パフォーマンス等の講演会の実施を計画する。</li> <li>・R4年度は、市民対象手話学習会や出前講座を新型コロナウイルス感染症の防止策を図ったうえで実施する。</li> <li>・ろうあ者に情報発信ができる多くの環境を整える。</li> </ul>			

施策(3)	持続可能な地域づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が健康で快適な生活を送ることができる都市機能やサービス機能を将来にわたって持続的に提供するとともに、日常生活の移動性を高めるため、持続可能な地域公共交通の確立に向けた計画策定や利用促進を実施する。また、人口減少が特に著しい茂辺地・石別地区の振興を図るため、両地域の魅力や特色を活かした地域づくりに関する地域が主体となった取組を支援する。</li> </ul>	

【施策の評価】

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各指標について進捗は認められないが、北斗市地域公共交通計画を策定し、新たな交通モードとして巡回ワゴンの実証運行が開始されるなど、持続可能な地域づくりの取組みは行われている。</li> </ul>
---

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	現状値	目標 (R6年度末)
・道南いさりび鉄道利用人数 (1日平均乗車人数)	約1,800人 (H30平均)	約1,400人 (R2平均)	約2,000人
・市内運行の路線バス乗車密度 (1台1日1キロあたり平均乗車人数)	6.6人 (H30平均)	5.7人 (R2平均)	6.6人 (維持)
・茂辺地・石別地区の交流人口数	84,862人 (H30)	45,037人 (R2)	90,000人

① 市民ニーズに対応した公共施設の管理・運営

A 公共施設長寿命化事業 [財政課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築系公共施設は建物主要構造部の劣化を抑制する予防保全の改修事業や機械設備の更新等を実施。</li> <li>道路・橋りょうは国の社会資本整備計画を踏まえ計画的に実施。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額	R3予算額	
	912,045,813	1,055,798,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民施設 7,716,500円・・・久根別住民センター収納棚改修、住民施設非常用照明等更新ほか</li> <li>保健・福祉施設 49,044,380円・・・健康センター浴棟給湯設備改修、保健センター電気設備更新ほか</li> <li>産業系施設 7,029,000円・・・農業振興センター外周段差等改修ほか</li> <li>公園施設 91,762,000円・・・運動公園照明改修、都市公園遊具改修ほか</li> <li>市営住宅 119,395,000円・・・中野通団地給排水管更新、久根別団地給排水管更新ほか</li> <li>学校教育施設 70,537,500円・・・教員住宅屋根塗装、谷川小学校ホワイエ更新ほか</li> <li>社会教育施設 184,608,600円・・・公民館機械室暖房配管更新、文化センター小ホール音響設備改修ほか</li> <li>行政施設ほか 18,304,000円・・・本庁舎機械設備配管等更新・洗車機保管庫改修ほか</li> <li>市道・橋りょう 363,648,833円・・・市道ストック整備、橋りょう改修ほか</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民施設 959千円・・・住民施設非常用照明等更新ほか</li> <li>保健・福祉施設 50,979千円・・・健康センター電気設備等更新、浴棟給湯設備改修ほか</li> <li>産業系施設 15,233千円・・・農業振興センター屋根改修</li> <li>公園施設 161,426千円・・・運動公園施設改修、都市公園遊具改修ほか</li> <li>市営住宅 125,115千円・・・富川団地外壁等改修、久根別団地給排水管更新ほか</li> <li>学校教育施設 35,202千円・・・大野中学校拡声設備改修、第1学校給食共同調理場外壁改修ほか</li> <li>社会教育施設 86,156千円・・・公民館空調設備更新、総合体育館更衣室等改修ほか</li> <li>行政施設ほか 197,628千円・・・本庁舎機械設備配管等更新ほか</li> <li>市道・橋りょう 383,100千円・・・市道ストック整備、橋りょう改修ほか</li> <li>公共施設等の総合かつ計画的な管理を円滑に推進するため、「北斗市公共施設等総合管理計画」の更新を実施。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>再点検のうえ、技術的な視点だけでなく公会計制度による資産管理の面からも検討を加え、予算計上を行う。</li> <li>事業実施の財源確保に当たっては、合併特例債など財政運営上有利な地方債の借入れの実施、また、基金総額の維持を図りつつ、公共施設長寿命化整備基金、文教施設整備基金など特定目的基金の効果的・有効的な活用を行う。</li> <li>更新後の「北斗市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の在り方を含め、中長期的な観点から、公共施設等の適切な管理を引き続き実施。</li> </ul>		

B 運動公園施設改修事業 [都市住宅課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和53年度に供用開始した運動公園も老朽化が進んできており、修景広場（噴水）や花見広場等の時代にそぐわないような施設も増えてきていること、新たに野球場の東側に公園敷地を確保したこと、また、施設改修に対する利用者等からの要望も増えているため、運動公園のリニューアルを行うものである。</li> <li>・スケジュールは、R1年度基本設計、R2年度事業化検討、R3年度詳細設計、R4年度からR7年度の4か年で工事実施を予定。</li> <li>・概算工事費については12億円程度を予定しており、うち1億2千万円を社会資本整備総合交付金事業の対象と想定している。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 57,959,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R1年度に完成した基本設計のうち、公園施設長寿命化対策として社会資本整備総合交付金事業を利用して更新できる施設の割り出しが出来た。</li> <li>・庁内検討、パブリックコメントによりR3年度の詳細設計に向けた基本構想を固めることができた。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本構想を踏まえ、災害時にも応用できる機能を持つ公園として現況測量、井戸調査、詳細設計を実施する。</li> <li>・R4年度からR7年度の施工期間において、全国や全道大会など確定している大規模イベントを関係部署との連絡を密にすることで把握し、滞りなく施工できるスケジュールを構築する。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度構築したスケジュールのR4年度施工部分に関し、更に市主催や地域の大会などを考慮しながら、適切な施工時期の計画としていく。</li> </ul>		

C 都市公園安全・安心対策事業 [都市住宅課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園安全・安心対策事業（長寿命化対策）</li> <li>R2年度から社会資本整備総合交付金事業により、公園施設長寿命化計画の見直しと同時に老朽化した遊具の更新又は修繕を行っている。</li> <li>・事業期間を5か年とし、R6年度までに遊具更新を行う計画ではあるが、R2年度実施の公園遊具安全点検の結果、新たに修繕又は更新を必要としている遊具が多数出てきているため、完了年度は延長される見込みである。</li> <li>・現在のところ、事業費年間5千万円の5ヶ年間で計2億5千万円想定となっているが、今後毎年実施する公園遊具安全点検により、老朽化遊具は増えることが想定される。 (対象都市公園42公園 対象遊具91基)</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 51,106,000	R3予算額 358,160,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園施設長寿命化計画の見直しを行い、この計画に沿って、都市公園の老朽化した遊具の更新を実施した。(10公園、13遊具) また、都市公園以外の公園で老朽化した遊具の更新及び改修を実施した。(6公園、9遊具)</li> <li>・事業開始年度であることから、実施設計委託もR2年度で実施せざるを得なく、工事発注時期が11月となった。R3年度分までの実施設計が完了しており、R2年度よりも早期に工事発注が可能である。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度は3公園、7遊具の更新を計画しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により遊具製作期間が通常時より日数を要している。</li> <li>・次年度の更新に向け、該当する公園が位置する町会に更新の必要性を確認し、更新希望であれば、引き続き遊具の種類を選定してもらうことで地域住民のニーズに応じていく。(15公園、23遊具の予定)</li> <li>・更新遊具の実施設計を今年度中に完成させ、早期発注に備える。</li> <li>・浜分近隣公園の借地及び隣接地を取得し、地域住民のニーズに沿った改修工事に備える。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度もこれまでと同様の事業費5千万円で予算要望している。</li> <li>・町会に確認した更新遊具について滞りなく発注する。(15公園、23遊具の予定)</li> <li>・前年度同様、R5年度の更新遊具については、町会を通し地域住民のニーズを探り決定する。</li> </ul>		

② 公共交通の充実

A 公共交通のあり方の検討 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通は、日常生活における移動手段として欠かすことができないが、人口減少に伴い、将来的に持続するには問題がある一方、今後は高齢化や運転免許証自主返納により、需要は高まることが想定されている。</li> <li>市民の移動ニーズに対応した新たな交通モードを検討するため、従来の公共交通サービスのみならず、地域の多様な輸送資源を総動員した、地域公共交通計画を作成する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 463,000	R3予算額 1,084,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>国からの補助を受け、地域公共交通活性化協議会において地域公共交通計画作成上必要となる調査事業を実施した。</li> <li>ニーズ把握にあたっては、市民アンケートだけでなく市民の声を直接聞く地域ヒアリングを実施し、計画素案を作成した。</li> <li>R3年3月に、市として地域公共交通計画を決定した。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共交通活性化協議会において新たな交通モードとして巡回ワゴンの運行計画案を作成し、10月1日から実証運行を開始。</li> <li>実証運行の結果を踏まえ、R4年以降の本格運行に向けて必要な協議を進める。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証運行の結果を踏まえ、R4年以降の本格運行を目指す。</li> </ul>		

B 新函館北斗駅・上磯線バス運行事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス生活路線を維持するためバス交通事業者と連携し利便性の向上や利用促進に努める。</li> <li>幹線交通となった新函館北斗駅・上磯線の利用促進に努める。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 13,000,000	R3予算額 13,000,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>直近3年の利用者実績 R30年度利用者実績：27,186人 R1年度利用者実績：23,039人 R2年度利用者実績：23,032人</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響による学校の一斉休校に機動的に対応し、平日ダイヤから休日ダイヤへの切替運行を行った。</li> <li>3密対策として、上磯中学校の生徒の登校用ダイヤを増便し、生徒の乗車人数を調整。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新函館北斗駅・上磯線について利用者の増加を図るため、ニーズを把握し路線変更等の検討を適宜実施する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、上磯中学校の生徒の登校用ダイヤの増便を検討。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新函館北斗駅・上磯線の利用が伸び悩んでいることから、利用促進に向けたさらなる取組みを検討。</li> </ul>		

C 道南いさりび鉄道地域応援隊への活動補助 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>道南いさりび鉄道を活用した地域おこしを目指し、沿線の北斗市、函館市、木古内町から推薦を受けた地域住民が主体となり、応援隊として連携しながら、利用促進に向けた活動の実施に要する経費を補助。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 100,000	R3予算額 80,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等 <ul style="list-style-type: none"> <li>ハロウィン、クリスマス、開業5周年時期の駅舎の飾り付けを実施。</li> <li>イベント時の駅舎の飾り付け等は、新聞やSNSで取り上げられることもあり一定の宣伝効果があった。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等 <ul style="list-style-type: none"> <li>道南いさりび鉄道のPR、応援活動、駅周辺美化・装飾活動、団体列車の企画・実施等の活動に対し引き続き支援を行う。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性 <ul style="list-style-type: none"> <li>2市1町で協議の上、利用促進に向けた活動に対する支援を継続予定。</li> </ul>		

D 道南いさりび鉄道通学定期券購入費助成事業 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>いさりび鉄道開業前運賃からの上昇分について、負担増の緩和と利用促進を図ることを目的に、通学定期券利用者に対し補助するものであり、引き続き利用促進に向けての周知を図る。</li> <li>補助対象経費（JRからの運賃上昇分）の2/3を補助。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 1,961,000	R3予算額 2,700,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等 <ul style="list-style-type: none"> <li>申請利用者数 306人（対前年比85.0%）、補助金額1,961千円（対前年比88.7%）</li> <li>いさりび鉄道の利用促進につながるよう、市内中学校生徒や沿線高等学校や大学等の学生への補助制度の周知する。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等 <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、いさりび鉄道開業前運賃からの上昇分について、負担増の緩和と利用促進を図ることを目的に、通学定期券利用者に対し補助を行う。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性 <ul style="list-style-type: none"> <li>いさりび鉄道開業前運賃からの上昇分について、負担増の緩和と利用促進を図ることを目的に、通学定期券利用者に対し補助するものであり、利用促進に向けての周知を図る。</li> </ul>		

E 公共交通利用促進PRの強化 [企画課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の利用促進を図るため、広報誌等による啓発やキャンペーンを実施し、日常生活での道南いさりび鉄道やバス交通等の利用を呼び掛けるとともに、市内事業者や団体等に対する協力を求める。</li> <li>開業5周年を迎えるにあたり、新たな生活様式における利用促進を図る取組を検討する。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2 決算額 0 円	R3 予算額 100,000 円	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道が実施する「ノーカーデー」や新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく落ち込んだ交通需要の回復に向けて取組む「ぐるっと北海道・公共交通利用促進キャンペーン」を広報誌等で周知し、利用促進を図った。</li> <li>北斗市地域公共交通計画を策定し、<u>公共交通利用促進キャンペーンやわかりやすいツール作成を施策に位置付けた。</u></li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、<u>モビリティマネジメント教育（バスの乗り方講座）等を実施し公共交通の利用を促す。</u></li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>進化する交通技術に関して関係者間で情報共有を行い、新たな交通施策につなげる。</li> <li>継続して住民向けの情報共有として、広報誌等で地域公共交通に関する情報発信を行う。</li> </ul>		

③ 茂辺地・石別地区の地域振興

A 茂辺地地区創生事業 [茂辺地支所]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の新しいランドマークである寝台特急北斗星を活用し、交流人口の増加につなげるため、茂辺地北斗星広場の整備や活用、いつまでも健康で生き生きと過ごせるようなサロン活動など、茂辺地地区創生会議における事業を支援。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 0	R3予算額 0	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した交流人口拡大事業として、マリーゴールド植栽（30名参加）、記念植樹を実施。茂辺地わくわくサロン開設・運営事業は全11回開催（参加者平均23名）。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自走化に向けた団体の活動に対する支援を継続。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>・茂辺地地区創生会議の事務局として、自走化に向けた団体の活動に対する支援を継続。</li> </ul>		

B 石別地区観光推進事業 [観光課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石別地区の持つ特色ある観光資源（トラピスト修道院、ブドウ園、灯台、赤とんぼなど）を地域自らの力で磨き上げ、石別地区の観光振興を促進しようと、地域が主体となって平成24年度を初年度に開始された事業。</li> <li>・トラピスト通りライトアップ事業、レンタル自転車事業などを行う。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 2,876,000	R3予算額 2,932,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等  主な事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタル自転車事業：4月1日から11月30日まで、利用者120名（R1：190名）</li> <li>・トラピスト通りライトアップ：12月17日から同24日、入込客912名（R1：1,205名）</li> <li>・最大の事業であるトラピスト通りライトアップ事業は前年度までの19時で終了を20時に改め、地区の魅力向上を図った。</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等  主な事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタル自転車事業：4月1日から11月30日まで。地区の魅力をさらに広げることを目的に新函館北斗駅前においてもレンタル自転車事業を展開し、自主財源の確保にも努める。</li> <li>・トラピスト通りライトアップ事業：12月17日から同24日（16時から20時）</li> <li>・石別地区イラストマップ制作事業：自転車で巡る手書きイラストマップを制作（10,000部）。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性  <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度に作成した石別版のイラストマップを活用し、ルルドの洞窟や北斗ヴィンヤード、当別風の丘などに誘導することで石別地区の更なる魅力を内外に発信、PRの強化を図る。</li> </ul>		

C 新茂辺地団地建設事業 [都市住宅課]		継続	既存事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現茂辺地団地の老朽化による建替えであり、旧茂辺地中学校グラウンドに建設。</li> <li>・1棟12戸の3階建てとし、津波等による周辺住民の避難場所としての活用も想定。</li> </ul>		
事業費 (円)	R2決算額 397,118,000	R3予算額 23,452,000	
R2	事業の実施結果、数値目標及びKPI達成に向けた効果や課題等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物本体建設・・・397,118千円 鉄筋コンクリート造3階建 1棟12戸</li> <li>・今年度完成、入居者募集（住替5戸、新規7戸（内子育て世帯3戸）</li> </ul>		
R3	事業の実施計画、実施結果、結果を踏まえた改善点等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月入居開始（1戸空き有り）→11月に定時募集予定</li> <li>・外構工事（駐車場、児童遊園、植栽）が9月に完了し、供用開始している。</li> </ul>		
R4	予算計上に向けた考え方、前年度を踏まえた方向性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業終了。</li> </ul>		